



2024年度

明治大学 ボランティアセンター活動報告書

Meiji University Volunteer Center



ボランティアセンター 活動報告書発刊にあたって

石津 寿恵 ボランティアセンター長
(学務担当副学長・学生部長・経営学部 教授)

自然災害の頻発、学生の抱える課題の多様化、社会貢献への意識の高揚などから2024年度も多彩なボランティア活動が行われ、学生の自己実現・成長の貴重な機会となりました。

現在、大学では、ピア・サポートに着目した活動を進めています。支援する側、受ける側という一方通行の関係ではなく、場面に応じて学生の相互作用に着目し、学び合いにも通じる活動が行われるようになってきています。

このようにボランティア意識・活動は一層多様化してきております。その変化するニーズに対応すべく尽力されている教職員ならびに学生、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

さて今年度も、本学学生・教職員としての活動、社会の一員としての活動、そして人と人を結びつける活動という三本柱を中心に、各キャンパスの特性を生かした、多様な視点に基づく有意義な活動を展開して参りました。

駿河台ボランティアセンターでは、災害・防災をテーマとした講座の開催に力を入れ、災害救援ボランティア講座の実施の他、災害ボランティアの基本知識を身に付けられる防災ミニ講座、防災ワークショップの実施等の取り組みがありました。

和泉ボランティアセンターでは、被災地での活動を考えている学生に向けて、活動の知識や心構えを身につけるためのワークショップや体験型の講座を行いました。公認ボランティアサークルは、2023年度、2024年度で2つ増え、現在11団体となりました。サークル所属学生のセンター利用も一層増え、活動がより活発に行われている姿が見られます。ボランティアのきっかけ作りとなる活動にも力を入れ、加えて、地域の方との交流が増加し、さらに活動の場が増えてきています。

生田ボランティアセンターでは、こども実験教室、中学校環境教室、小学校プログラミング教室など、地域の教育機関と連携した、こどもと共に学生も学んでいく貢献活動が充実していました。また、学生が自らの体験を他学生に伝えるトークイベントでは参加者とじっくりと話せる対面方式・他キャンパスの学生にも伝えられるオンライン方式とどちらも積極的に行いました。

中野ボランティアセンターでは、語学教室・対話カフェ・清掃活動などを開催しました。継続してボランティアに参加してくれるなど、学生同士の交流がより深まっていることを嬉しく感じます。

また、2024年元旦の能登半島地震に関して、すべてのボランティアセンターにおいて、災害ボランティア参加時の安全面でのアドバイス、並びに、災害復興ボランティア助成金の周知及び申請方法の説明を丁寧に行い、学生が安全に負担少なく活動できるように後押しをしました。

上記のように2024年度も各キャンパスの特性を生かした多様なボランティア活動が進められました。今後も、学生相互の成長になるとともに社会への大きな貢献となるボランティア活動がますます充実するよう環境整備に努めてまいります。

今後とも本学ボランティアセンターの活動に一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ボランティアセンターの理念・目的

学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送れるように、学生生活全般の充実とそのためのキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンターは、正課外教育の観点から、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的としている。

ボランティアセンター運営会・分科会名簿

2024年度ボランティアセンター運営委員会

センター長

経営学部 専任教授 石津 寿恵

副センター長

駿河台担当 文学部 専任教授 富重 与志生

和泉担当 法学部 専任教授 釜崎 太

生田担当 理工学部 専任教授 井上 全人

中野担当 政治経済学部 専任准教授 仮屋 浩子

運営委員

法学部 専任教授 斎藤 一久

商学部 専任講師 浅間 哲平

政治経済学部 専任教授 水戸部 由枝

文学部 専任講師 新城 真里奈

理工学部 専任准教授 宮部 賢志

農学部 専任准教授 河野 菜摘子

経営学部 専任講師 浅野 千鶴

情報コミュニケーション学部 専任准教授 清水 晶紀

国際日本学部 専任准教授

小野 雅琴

総合数理学部 専任教授

渡邊 恵太

学生支援部長

小野寺 幸子

学生支援事務長

須藤 弘樹

和泉学生支援事務長

東盛 達也

生田学生支援事務長

幕内 達二

中野教育研究支援事務長

藤嶋 利生

駿河台キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）

文学部 専任教授 富重 与志生

分科会委員

法学部 専任教授 斎藤 一久

政治経済学部 専任教授 水戸部 由枝

文学部 専任講師 新城 真里奈

経営学部 専任講師 浅野 千鶴

事務局

学生支援事務長 須藤 弘樹

学生支援事務室 秋山 智美

駿河台ボランティアセンター 河野 理紗

和泉キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）

法学部 専任教授 釜崎 太

分科会委員

商学部 専任講師 浅間 哲平

情報コミュニケーション学部 専任准教授 清水 晶紀

和泉キャンパス課長 庄井 正志

事務局

和泉学生支援事務長 東盛 達也

和泉学生支援事務室 渡辺 正人

和泉ボランティアセンター 小林 和子

和泉ボランティアセンター 高橋 真由美

生田キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）

理工学部 専任教授 井上 全人

分科会委員

理工学部 専任准教授 宮部 賢志

農学部 専任准教授 河野 菜摘子

生田キャンパス課 鈴木 幸司

事務局

生田学生支援事務長 幕内 達二

生田学生支援事務室 江頭 洋介

生田学生支援事務室 大須賀 克之

生田ボランティアセンター 加藤 岳志

生田ボランティアセンター 小林 優美子

中野キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）

政治経済学部 専任准教授 仮屋 浩子

分科会委員

国際日本学部 専任准教授 小野 雅琴

総合数理学部 専任教授 渡邊 恵太

事務局

中野教育研究支援事務長 藤嶋 利生

中野教育研究支援事務室 西尾 忠久

中野教育研究支援事務室 菊池 稔子

目次

活動報告書発刊にあたって (ボランティアセンター長挨拶)	1
ボランティアセンター 運営委員会・分科会名簿	2
年間活動一覧	4
活動報告	
副センター長より	6
センターが主催・コーディネートする活動	8
学生の自主的な活動の支援	43
資料	
ボランティアセンター来室者・活動参加者 外部事業への協力・取材など 発行物	62

※表記について

明治大学では、「障害」の文字表記を「障がい」として統一しています。
ただし、固有名称および感想においては、この限りではありません。

2024年度 明治大学ボランティアセンター年間活動一覧

駿河台ボランティアセンター

和泉ボランティアセンター

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアミニ研修 P9 	<ul style="list-style-type: none"> ・明大生ボランティア丸ごと紹介タイム P13
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ながら見守り」活動啓発グッズ作成への協力 (Tree) P58 ・神田すずらんまつり (Tree) P58 ・善福寺公園の清掃 (Tree) P51 ・災害救援ボランティア講座 P8 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾い活動「ともだちつくりとごみひろい」 P38 ・防災講座「クロスロードで考えよう！」 P12 ・海外ボランティア報告会 P13
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・スポGOMI in すみだ環境フェアへの参加 (Tree) P52 ・華を楽しむ会 (Tree) P59 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア体験教室 P11 ・杉並区高齢者との「Ocha-ka!」(6月、12月、3月) P24-P26 ・せたがや学生ボランティアネットワーク会議(6月~3月) P14 ・TABLE FOR TWO (サークルぱれっと)(6月、12月) P45 ・Meal for Refugees (サークルMIFO)(6月、12月) P47 ・全商品リサイクル活動(サークルMIFO)(6月、12月) P48
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーサンタ2024 BorderlessBlue at 葛西臨海公園 (Tree) P53 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏のボランティア情報コーナーと相談窓口設置 P15 ・ボランティア活動支援分科会
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生との日本語交流ボランティア (Tree) P44 	<ul style="list-style-type: none"> ・「明大生とキンボール体験!!」大学生と楽しくニュースポーツしてみませんか? P29 ・竹とんぼ教室 P30
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・MIW祭り (Tree) P53 ・ホームカミングデーへの協力 (Tree) P28 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスティバル P23 ・美しい海を未来へ残そう! inバリ島 P38
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・災害救援ボランティア講座 P8 ・備蓄品の配布訓練 P9 ・ボランティア報告会(令和6年能登半島地震) P12 ・「ながら見守り」活動啓発グッズ作成への協力 (Tree) P58 ・第13回 NIPPON IT チャリティ 駅伝 (Tree) P44 ・こども食堂のお手伝い (Tree) P50 	<ul style="list-style-type: none"> ・おにぎりアクション(サークルぱれっと) P46 ・体験イベント「ブラインドウォーク・高齢者・点字」 P26 ・哲学対話 P15 ・せたがや学生ボランティアフォーラム P14
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・善福寺公園の清掃 (Tree) P51 ・華を楽しむ会 (Tree) P59 ・防災ワークショップ P10 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアサークル新幹事長・支部長顔合わせ P16 ・クリスマス音楽会 P27 ・愛知・名古屋2026アジア大会ボランティア説明会 P16
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動支援分科会
2月		
3月		
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ回収 (Tree) P55 ・エコキャップ業者引き渡し (Tree) P56 	<ul style="list-style-type: none"> ・明大前駅周辺清掃活動(サークルぱれっと) P54 ・エコキャップ回収(サークルぱれっと) P57
4キャンパス合同	<ul style="list-style-type: none"> ・3大学連携オンライン講座(9月) P42 	

生田ボランティアセンター

中野ボランティアセンター

<ul style="list-style-type: none"> ボランティア相談会 P20 昼休み学生トーク！(4月～5月) P18 ランチ会(4月～5月) P20 	<ul style="list-style-type: none"> 対話カフェ(4月～7月) P21 	4月
<ul style="list-style-type: none"> 江の島新歓清掃(LINKs) P55 実験テーマ創り①(5月～7月) P39 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語教室(5月～7月) P22 中国語教室(5月～7月) P23 献血活動への呼びかけ P50 	5月
<ul style="list-style-type: none"> 科学博士になろう①(5月～6月) P30 ボランティア活動支援分科会 	<ul style="list-style-type: none"> 全商品リサイクル活動(6月) P49 清掃活動(6月～7月) P39 	6月
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア相談会 P20 能登半島での被災地支援活動(7月～9月)(LINKs) P43 ボランティア活動支援分科会 		7月
<ul style="list-style-type: none"> かわさきサイエンスチャレンジ(7月～8月) P33 オープンキャンパス液体窒素実験 P35 		8月
<ul style="list-style-type: none"> 小学校でのプログラミング授業のサポート(8月～9月) P37 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 	9月
	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動(10月) P39 対話カフェ(10月～11月) P21 韓国語教室(10月～12月) P22 中国語教室(10月～12月) P23 	10月
<ul style="list-style-type: none"> 生明祭液体窒素実験 P35 環境ワークショップへの出展(10月～11月) P40 		11月
<ul style="list-style-type: none"> 実験テーマ創り②+科学博士になろう②(11月～12月) P31 昼やすみ学生トーク！(12月～1月) P18 	<ul style="list-style-type: none"> 献血活動への呼びかけ P50 	12月
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア相談会 P20 		1月
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 	2月
		3月
<ul style="list-style-type: none"> 公式SNSで発信 P17 		通年

- ・ボランティアセンター運営委員会(年2回)
- ・オンライン団体登録(通年)
- ・災害復興ボランティア活動に対する助成金(通年)

4キャンパス
合同

副センター長より

学生がみずから人間力を育む支援を

富重 与志生 ボランティアセンター副センター長
(駿河台担当、文学部 教授)

2024年度の駿河台ボランティアセンターは、元旦に発生した能登半島沖地震とその被害、復興の遅れの現状もあって高まっているボランティアへの関心に対応するために、まず年度初めの4月26日昼休みに、「災害ボランティアの安全・衛生」と題して災害ボランティアについてのミニ研修を開催しました。また、春と秋各一回の災害救援ボランティア講座開催、オンラインで体育会ローバースカウト部の学生3名に「能登半島地震ボランティア体験談」を話してもらうイベントなど、多様な活動に取り組むことができました。

学生ボランティア団体Treeのメンバーたちも、エコキャップ回収活動、葛西臨海公園をはじめとする各地での清掃活動、華を楽しむ会（猿楽町内の花壇の整備と花植え）などの主要な活動のほか、コロナ禍の制限がなくなったこともあり、神田すずらんまつり、MIW（千代田区男女共同参画センター）祭り、そして大学のホームカミングデー等々、数多くのイベントにも参加することができ、また、託児ボランティアにも挑戦いたしました。

倒れた人があれば、駆け寄って助けようとするのが人間です。見守ったり、話を聞いたり、助け起こしたりします。しかしそれがうまくできるためには、とっさの行動力が、体力が必要ですし、何より知識と共感性が必要です。これらを総合する力を人間力と言ったらよいでしょうか。この人間力のいくつかの側面を学生が身につけるのに、力添えをするのがボランティアセンターの役目だと思っております。そのような意味で、今後も学生の社会参加や社会貢献活動を支援するために、ボランティアセンターとしてさまざまな情報や機会を提供して参ります。それらを通じて学生がみずから人間力を育んでくれることを、私は期待しております。

ボランティアを通じた集団体験

釜崎 太 ボランティア副センター長
(和泉担当、法学部 専任教授)

2020年にはじまったパンデミックは、多くの子どもたちから集団体験の機会を奪いました。現在の大学生のなかにも、中学・高校生活のなかで十分な集団体験を積むことができなかった学生も少なくありません。もとより、日本の教育制度のなかでは、集団体験の多くが受動的なものにとどまり、自ら企画をたて、自ら実行するといった機会に乏しいことが指摘されています。

このような状況のもとで、大学でのサークル活動やボランティア活動は能動的な集団体験の場を提供する貴重な機会です。本年度は、パンデミックで機能不全に陥っていたサークルとの連携を意識的に増やすことで、集団体験の輪を広げることに努めてきました。

地域の人々と対話しながら多様なニーズの存在を知り、自分たちで何が必要かを考え、ときには仲間との意見の違いを調整しながら、ひとつの目標に向かって活動することは、現代を生きる若者たちにとってかけがえのない機会になったはずです。高齢者や障がい者の方々との交流、リサイクル活動を通じた国際支援への参加など、日常生活では忘れがちな多方面への視野の広がりもまた、今後の学生たちの貴重な財産となったものと思います。

次年度もまた、多くの方々との多様な交流の輪を広げ、さらに充実した活動になるよう、努めてまいります。

学びの場としてのボランティア活動

井上 全人 ボランティア副センター長
(生田担当、理工学部 教授)

大学生活は、学問の探究にとどまらず、実社会と関わりながら多様な経験を積む貴重な機会でもあります。その一環として、ボランティア活動に参加する学生は、社会の課題に向き合いながら、自身の成長にもつなげています。

生田ボランティアセンターでは、地域の教育機関と連携し、小学校プログラミング教室、液体窒素実験、エネルギー環境ワークショップへの出展、こども科学教室など、理系学部の特色を生かした活動を展開してきました。これらの活動は、こどもたちに新たな学びの機会を提供するとともに、学生にとっても教育の現場を知り、他者と協働する貴重な経験の場となっています。

また、ボランティアの意義を広めるため、経験を共有するトークイベントや、学生同士が対話を深める交流イベントも開催しました。ボランティアは特別な人が行うものではなく、誰もが自分なりの関わり方で参加できるものです。こうした機会を通じ、多くの学生が第一歩を踏み出すきっかけを得られたのではないかと考えています。

ボランティア活動は、単なる社会貢献にとどまらず、参加する学生自身の成長にもつながります。活動を通じて得た経験や人とのつながりは、大学生活を充実させ、将来の社会においても大きな糧となるでしょう。

今後も、より多くの学生がボランティア活動を通じて学び、成長できる環境を整えていくことが求められます。これまでご支援いただいた関係者の皆様、共に活動した学生の皆さんに心より感謝申し上げますとともに、ボランティアセンターのさらなる発展を願っております。

中野駅周辺の再開発とともに活動の拡充を

仮屋 浩子 ボランティア副センター長
(中野担当、政治経済学部 准教授)

中野駅から徒歩5分、再開発地域「中野四季の都市」のなかに憩いの場「中野四季の森公園」があります。そこに隣接する中野キャンパスは、「国際化」「先端研究」「社会連携」をコンセプトとし、国際日本学部、総合数理学部の学生たちが学問・研究に勤しむかたわら、住民や企業組織人など様々な人々が集い交流する場としての土地柄を生かした、ボランティア活動が行われています。好評をえているのは、講師が学生ボランティアとなり例年実施されている中国語・韓国語の語学教室、地域住民の方々や学生同士の新たな交流をうむ機会となっている清掃活動などです。また、衣服リサイクルを実施しているMIFO (Meiji International Friendship Organization) は、回収した衣服をフリーマーケットで販売し、売り上げを「国境なき医師団」に寄付いたしました。

中野駅周辺は近年、歩行者に優しい空間の確保はもちろんのこと、より国際性や、先端性、社会連携が期待されるようなエリアへの変貌を目指して、さらなる再開発がすすめられています。区役所の新庁舎への移転、そして商業施設やマンションの開発に呼応するように、今後も行政や地域と連携した活動の一層の拡充を図り、学生の成長に寄与するとともに社会からの要請に応えていく所存です。皆様のご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

センターが主催・コーディネートする活動

防災・復興

災害救援ボランティア講座 駿河台

千代田区大規模災害時における協力体制に関する基本協定に基づき、2005年度から実施している千代田区助成事業です。千代田区と大学の災害時の協力体制を確実なものとしていくための学生ボランティアの養成を目的として実施しています。全3日間のカリキュラム修了者には、「セーフティリーダー認定証」および「上級救命技能認定証」が交付されます。

日時 春学期 2024年5月25日(土)、6月1日(土)、8日(土) 9:00~17:00

秋学期 2024年11月9日(土)、16日(土)、23日(土) 9:00~17:00

場所 駿河台キャンパスリバティタワー内教室およびスポーツルーム、池袋防災館

内容 消防実務・ボランティア有識者による講義・演習、防災館での災害模擬体験、上級救命技能講習などの実技を3日間通して学ぶ。

協力 災害救援ボランティア推進委員会

後援 総務省消防庁、NHK

受講者数 春学期 36名 秋学期 30名

累計受講者数 953名(2005~2024年度)

災害救援サポーター登録人数 春学期・秋学期累計 33名

② 災害救援サポーターとは…

災害発生時に、本学教職員と協力して積極的に支援活動に参加する明治大学生の組織。

例えば、避難誘導、備蓄品配布の手伝い、負傷者の手当てや搬送等を想定しています。その他、防災関連イベント等の協力も想定している。登録時から在学期間中適応となる。

【過去の災害救援班(サポーター)の取り組み】

・駿河台キャンパス総合防災訓練への参加 ・AED講習会の実施など



救命講習の様子



グループワークの様子



防災館での様子



講義の様子



地震体験の様子

災害ボランティアミニ研修 駿河台

令和6年能登半島地震の発生により、災害ボランティアへの学生の関心が高まっていたことから、災害ボランティアの基本的な知識を身に付けられる、気軽に参加できるイベントとして、学生の昼休みの時間帯に開催しました。

日時	2024年4月26日(金) 昼休み
方法	Zoom
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動保険への加入 ・災害ボランティア活動の安全衛生 ・事前準備と心構え ・その他お知らせ
参加	学生・教員 計18名
講師	濱口 晋介氏 (公益財団法人日本法制学会 災害救援ボランティア推進委員会 事務局)



ポスター

参加学生の声



- ・短い時間でコンパクトに要点をまとめた内容でとても分かりやすかった。
- ・ボランティア活動前の情報から活動内容、活動した後の流れの説明が丁寧だった。
- ・災害ボランティアの位置付けや役割等について、分かりやすくご説明いただき、理解を深められた。

備蓄品の配布訓練 駿河台

明治大学総務課主催により、駿河台キャンパス備蓄品の配布訓練が行われ、ボランティア学生が協力しました。当日は段ボールを開け、備蓄品(クラッカー、アルファ化米、2Lミネラルウォーター)をテーブルに並べたり、空になった段ボールを畳んで重ねたりする作業に協力しました。

日時	2024年11月15日(金) 10:00~16:00 (ボランティア学生は、実施時間内で空いている任意の時間に参加)
場所	リバティタワー1階紫紺ホール
内容	備蓄食料品配布訓練の補助
参加	1名
目的	今後発生が予想される大規模災害に備え、防火・防災に対する意識及び技術の向上を図る。
センターの役割	連絡・調整、ボランティア募集、当日受付



備蓄品運搬・配布の様子

防災ワークショップ 駿河台

2014年度から駿河台キャンパスで実施している企画で、学生や教職員の防災意識を高めることを目的に年1～2回開催しています。今回は、令和6年1月1日に発災した、能登半島地震から1年経過することを踏まえ、もし帰省中に災害に遭ってしまったらどうするか、具体的にシミュレーションしながらワークショップを通して意見交換しました。

3大学連携協定を結んでいる関西大学の学生、教職員にも参加していただき様々な視点で防災について考えました。

日時 2024年12月11日(火) 5限(17:10～18:55)

方法 Zoom

目的

- ・学生、教職員に対する防災意識の向上
- ・災害時の学生ボランティア養成のためのきっかけづくり

内容

- ・講義
- ・グループワーク
- ・質疑応答

参加 明治大学(学生7名、教員1名)、関西大学(学生2名、職員3名)

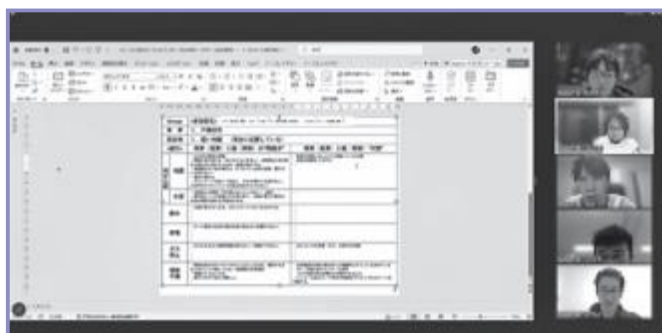
講師 中林 一樹氏(明治大学 元特任教授、明治大学復興・危機管理研究所 客員研究員、東京都立大学 名誉教授)

災害救援サポーター登録人数 1名

参加学生の声



- ・身近なところから災害への備えを考える非常に良い機会でした。「～かもしれない」という視点をもつことと、「災害を想像する力」と「備えを創造する力」を養うことを大切にしたいと思います。
- ・自分は防災対策できていると思いこんでいましたが、このワークショップを通じて、普段は気づけなかったさまざまな災害による問題、今後の対策について学ばせていただき、まだまだ足りてないことを実感しました。帰省した時に改めて防災対策について家族で話し合おうと思いました。
- ・人によって災害に対して様々な対策を行っており、大変参考になった。また、171の使い方など、平常時にはあまり聞かないサービスの使い方を学ぶ良い機会となった。
- ・留学生対象の日本語科目をコーディネートしています。短い留学中安全に暮らせるよう、防災学習を実施していきたいと思っていますので、今回のワークショップは大変勉強になりました。改めて、防災の大切さ、日ごろの意識、また、知識が重要であると感じました。
- ・1人や現在の居住環境では気づきづらいリスクに議論を通じて気づくことができました。複数人で一つの議題について意見し、多角的にその議題に関して視点を持つことができる意義のある時間でした。



防災ワークショップの様子

災害ボランティア体験教室 和泉

和泉ボランティアセンターでは、災害支援に関心のある学生を対象に、今後の活動の参考となるよう、災害時にどのような支援が行われるのかをイメージできる企画を実施しました。今回は「能登でのボランティア活動」を想定し、災害ボランティアセンターの一連の流れを体験する内容としました。あわせて、杉並社会福祉協議会より被災地のサロンのボランティアの紹介も行いました。

日時 2024年6月7日(木) 17:10～18:50

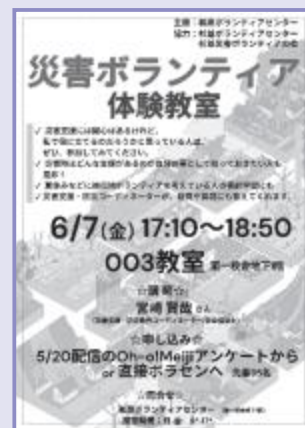
場所 和泉キャンパス内教室

内容 災害時に被災地で開設されるボランティアセンターの運営について、受付、オリエンテーション、マッチング、資機材の扱い、活動、報告といった一連の流れを、杉並社会福祉協議会の様式を使って体験

参加 9名、職員3名

講師 宮崎 賢哉 氏 (災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士)

協力 杉並ボランティアセンター
杉並災害ボランティアの会



ポスター

参加学生の声



アンケートより

- ・今回の体験だけでも非常に責任が伴う作業だと感じた。実際に行ってみれば他にも困難なことがたくさんあると思う。ボランティア活動の第一歩として有意義だった。
- ・ボランティアに行く際の参考になった。
- ・活動のリアルな内容や当日の大まかな流れがわかったので、実際に活動に参加した際に大きな動揺をしなくて済みそうで、とても良かった。
- ・災害ボランティアへ参加するイメージがしっかり沸きました。現場の状況や気づきを共有し、次につなげていくことの大切さを学べてよかったです。
- ・実際やってみて想像上ではあるが、活動の難しさ、楽しさが感じられた。とても良い活動になった。



体験教室の様子

防災講座「クロスロードで考えよう！」 和泉

夏休みに被災地へボランティアに赴く学生が増えることを想定し、災害対応を自らの問題として考え、様々な意見や価値観を参加者同士共有することを目的に防災講座を開催しました。講師に災害支援・防災教育コーディネーターを迎え、災害対応カードゲーム「クロスロード」を行いました。



講座の様子



ポスター

参加学生はゲームの中で、正解がない問いに対して判断を下すことで、防災を「他人事」ではなく「自分事」として考え、同時に相互に意見を交わすことで自分とは異なる意見・価値観の存在への気付きも得ることができました。

日時	2024年5月23日(木) 昼休み
場所	和泉キャンパス内教室
参加	7名
講師	宮崎 賢哉 氏 (災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士)
協力	杉並ボランティアセンター

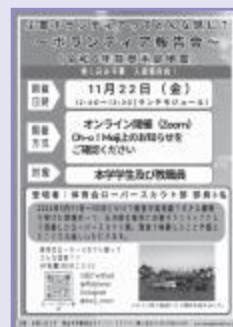
情報提供・交流

ボランティア報告会(令和6年能登半島地震) 駿河台

令和6年能登半島地震の発生後、本学からも沢山の学生が現地に行き、災害ボランティア活動に参加しました。今回は、本年3月に石川県七尾市で災害ボランティア活動を行った、明治大学体育会ローバースカウト部の学生3名に、災害ボランティアについて少しでも興味がある人やこれから具体的に被災地で活動してみたい!と考えている人に向けて、体験談を話していただきました。当日リアルタイムでの視聴が難しかった人に向けて、後日アーカイブ配信も行いました。

日時	2024年11月22日(金) 昼休み
方法	Zoom
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・明治大学体育会ローバースカウト部について ・被災地での奉仕活動について ・災害ボランティアに参加しようと思ったきっかけ ・災害ボランティアに参加する際に準備したこと ・実際に現地で行ったこととそこで感じたこと ・学生の立場で災害ボランティアとして何ができるか ・今後災害ボランティアに参加する人へのアドバイス&心構え ・質疑応答

参加	教職員及び学生で計14名 後日アーカイブ配信申込計39名 (学生29名、教職員10名)
----	---



能登イベントポスター

明大生ボランティア丸ごと紹介タイム 和泉

ボランティアに興味のある新入生を主な対象として、活動団体や形態を問わず、明大生が取り組んでいるボランティア活動や団体を一度に紹介する合同説明会を開催しました。昼休みの限られた時間でしたが、参加した学生たちは熱心に各団体の紹介に耳を傾けていました。説明会後には、興味を持った団体に詳しく話を聞きに行き、連絡先を交換するなど、早速新たな一歩を踏み出す学生の姿も見られました。



熱心に耳を傾ける学生たち

- 日時**
- ① 2024年4月19日(金) 昼休み
 - ② 2024年4月22日(月) 昼休み
 - ③ 2024年4月23日(火) 昼休み

場所 和泉キャンパス内教室

- 参加**
- ① 46名(登壇者12名)
 - ② 41名(登壇者12名)
 - ③ 26名(登壇者9名)



登壇した学生たち

海外ボランティア報告会 和泉

海外ボランティアに興味のある学生に向け、海外でボランティアを体験した学生に自身の体験や感じたことを語ってもらい、新しい挑戦へのきっかけとなることを目的に企画しました。また、海外ボランティアに参加する際の注意点や心得のレクチャーをしてもらうなどNGO法人NICEにご協力をいただきました。

報告会の終了後には数名の学生が残り、熱心に質問や相談をする姿が見られ、関心の高さを感じ取れた講座となりました。その後、海外ボランティアを探しに来室した複数の学生からイベントに参加したかったと声があり、今後の周知についての課題が残されました。

日時 2024年5月30日(木) 昼休み

場所 和泉キャンパス内教室

参加 10名(報告者3名)

協力 NGO法人NICE



報告会の様子

せたがや学生ボランティアネットワーク会議 せたがや学生ボランティアフォーラム 和泉

「せたがや学生ボランティアネットワーク会議」は世田谷区内で活動している各大学の学生ボランティア活動団体等と区との間でネットワークを作り、大学生による地域でのボランティア活動を推進するとともに大学生が区や地域とつながり活躍できる機会を増やし、新たなまちづくりを推進していくことを目的に1年を通して開催されています。その取り組みの一環として世田谷区内で活動する大学生がボランティア活動について発表し、地域の方とつながるイベントとして、学生と区の連携・協力による“まちづくり”の促進や、大学生によるボランティア活動に対する区民の理解・関心を深めることを目的とした「せたがや学生ボランティアフォーラム」があります。2024年度はこの活動に本学の公認ボランティアサークル5団体が参加しました。

日時 せたがや学生ボランティアネットワーク会議

2024年6月～2025年3月

せたがや学生ボランティアフォーラム

2024年11月30日(土) 14:00～16:30

場所 世田谷区立北沢区民会館「北沢タウンホール」

参加 公認ボランティアサークル「ぱれっと」

公認ボランティアサークル「きずなinternational」

公認ボランティアサークル「のえる」

公認ボランティアサークル「SHIP」

公認ボランティアサークル「Relief」

内容 2024年度の「せたがや学生ボランティアフォーラム」では、活動発表、ポスターセッション、ワークショップ（ボランティア適性診断、災害クイズ、SDGsカードゲーム、ごみ分別ゲーム、献血呼びかけ体験など）が行われました。



告知ポスター



活動発表の様子



ワークショップの様子

夏のボランティア情報コーナーと相談窓口設置 和泉

夏季休暇期間にボランティア活動を考えている学生に向けて、夏のボランティアを集めた情報コーナーをボランティアセンターの外のスペースに設置し、スタッフが相談に応じました。

併せて、ボランティア活動を行う際の注意事項の説明、ボランティア保険の加入についての案内も実施しました。



情報コーナー

- 日時** 2024年7月1日(月)～7月31日(水)
- 場所** 和泉ボランティアセンター及び和泉キャンパス内吹き抜けスペース
- 参加** 35名



ボランティアを探しに来た学生達

哲学対話 和泉

さまざまなバックグラウンドを持ち、いろいろなことを学び、考え、活動しているすべての学生たちに向け、哲学対話の手法を用いて気軽な雰囲気、誰もが対等に話し合う場を提供することを目的に開催しました。

- 日時**
 - ① 2024年11月29日(金) 13:30～15:00
 - ② 2024年12月16日(月) 13:30～15:00
- 場所** 和泉キャンパス内教室
- 内容**
 - ① テーマ「『ふあん』ってどこから来るの?」
否定的な態度を取らないなどの哲学対話のルールの下、答えをひとつに絞ることをしないで、「ふあん」の根源について話す。
 - ② テーマ「偏愛マップ×哲学対話」私の本当の「好き」を見つけよう!!
本学の齋藤 孝教授(文学部)が考案した「自分が好きで好きでたまらないものを書き込んだマップ」を作ることで視覚化し自己開示を行う。
- 参加**
 - ① 6名(ファシリテーター1名含む)
 - ② 9名(ファシリテーター1名含む)



哲学対話の様子

ボランティアサークル新幹事長・支部長顔合わせ 和泉

学生のつながりの場でもあるボランティアセンターで、サークル幹部の代替わりが行なわれたタイミングでサークル同士の交流を深めることを目的として実施。和泉ボランティアセンターでは、サークル活動の活性化やサークルの枠を超えた新たな活動につながることを期待し、今後も定期的な会合の支援を続けていきます。



集合写真



話し合いをする学生達

日時 2024年12月4日(水) 17:10~18:50

場所 和泉キャンパス内教室

- 内容**
- ・自己紹介
 - ・サークル紹介
 - ・サークル運営の問題解決のためのグループワーク・発表
 - ・サークル合同企画について
 - ・連絡先交換、名簿作り

参加 21名(公認ボランティアサークルの新幹事長・支部長)、職員2名

愛知・名古屋2026アジア大会ボランティア説明会 和泉 in和泉キャンパス

2026年秋、愛知県を中心に東京都、静岡県などで「2026年アジア競技大会・アジアパラ競技大会」が開催されます。和泉ボランティアセンターでは、国際的なスポーツ大会に関わる貴重な機会を通じて得られる経験や成果に期待し、説明会を開催しました。



説明会の様子

日時 2024年12月20日(金) 昼休み

場所 和泉キャンパス内教室

- 内容**
- ①国際大会でのスポーツボランティアの魅力
 - ②2026年アジア競技大会・アジアパラ競技大会&ボランティア募集の案内
 - ③東京でもできる!アジア競技大会・アジア競技大会ボランティア
 - ④応募するのが吉なのはなぜ?
 - ⑤質疑応答

進行 後藤 光将(政治経済学部教授)

参加 学生25名、ボランティア1名、教員1名、職員2名

協力 公益財団法人 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会

①公式Instagramの活用

2024年度も公式Instagramを活用して、生田のボランティアと社会貢献の“今”について、より一層積極的な発信に努めました。

日時 2024年4月1日(月)

～2025年3月31日(月)

内容 公式Instagramをとおして生田のボランティアと社会貢献の“今”を発信する

(1) 開室カレンダーの公開

生田ボランティアセンターの開室情報を、カレンダー形式でこまめに更新した

(2) 学生の社会貢献活動の紹介

活動のようすをカラー写真で具体的に伝えながら、明大生の率直な気持ちを綴った体験談を発信した。

(3) センター主催イベントの告知

イベントポスターを掲載し、主催イベントを広報した

発信 40回 体験談を寄稿した学生15名

(開室カレンダー公開17、学生の社会貢献活動の紹介23、イベント告知その他3)



公式 Instagram

②LINE 公式アカウントの活用

2023年度より外部団体のボランティア情報をLINE公式アカウントを使って発信しています。年度が替わるごとに新しいアカウントに更新します。

日時 2024年4月1日(月)～2025年3月31日(月)

内容 (1) 送信対象者…生田ボランティアセンターにボランティア相談に来室した学生のうちの希望者

(2) 発信する情報…生田ボランティアセンターで公開しているボランティアのなかで募集期間が短いもの及びボランティアの種類の多さを伝えられるもの。

発信 32回

登録 2025年3月31日現在 35名

昼やすみ学生トーク！ 生田

大学には、いろんなことを学び、活動し、考えたり、試している学生がたくさんいます。そんな学生達によるプレゼンや交流のイベントを、2016年度から、授業期間中の昼休みに開催しています。

2024年度も、対面で「学生トーク」を開催しました。また、一部のトークでは対面とオンラインとのハイフレックスとしました。

日時 2024年4月16日(火)～2025年1月20日(月)

授業期間中の昼休み 12:45～13:15 計13回

場所 生田ボランティアセンター

方法 対面、対面とオンラインのハイフレックス

参加 学生151名(担当を含む)

日時	タイトル	担当	方法	参加*
4月16日(火)	新入生歓迎！！ 繋がるボランティア、LINKs！	農学部 ぐっしー&はらちゃん	対面	42
4月17日(水)	しんちーむ 福島県での地域復興ボランティア	政治経済学部3年 とぎ野 寧尾	対面	5
4月18日(木)	SHIP ボラサー最大級！遊びもボラン ティアも全力で	理工学部3年 浜崎 響介	対面	6
4月23日(火)	無料で3泊4日 IN 軽井沢！？ ～旅するボランティア	理工学部3年 岩田 海	対面	12
4月24日(水)	環境に関心のある方におすす め！環境系NPO法人での8ヶ月 有給インターン体験 ～大学では学べない幅広い体験 と環境に関心を持つ学生との繋 がりができるかも！	理工学研究科 山口 寛太	対面	25
4月25日(木)	ボランティアの世界って広い！！ ～多様なボランティアを経験し て～	農学部2年 佐藤 来美	対面 +オンライン	10 (3)
4月26日(金)	無料塾で中高生に学習支援をし てみた ～日本の隠れた貧困に向き合う～	農学部2年 菊水 優太	対面 +オンライン	7 (5)
5月14日(火)	固定概念を捨てて自分の可能性 を広げよう！	理工学部4年 荒井 綾太	対面	7
5月15日(水)	[アプリ活用] 効率重視の学習 ～通学時間にとらわれない～	理工学部4年 佐藤 純大	対面	7

日時	タイトル	担当	方法	参加*
12月16日(月)	スリランカでボランティア×ホームステイ	農学部2年 佐藤 来美	対面	4
12月17日(火)	地震から一年 ～能登の復興を支える多様な支援の形	公認ボランティアサークルLINKs 飯田 莉代	対面	1
12月18日(水)	大学生に狩猟は可能か？ ～学生狩猟サークルにできることは～	公認サークル狩り部 鈴木 伊織	対面	4
1月20日(月)	3年生必見！ 『プロ野球×インターンシップ ってどんな経験ができる！？』	理工学部4年 J.S	対面 +オンライン	37 (33)
計				167 (41)

* 1 学生の意思を尊重し開催時の登壇者名のまま記載

* 2 カッコ内は内数のオンライン参加者数



プロジェクトでスライドを投影しながらトーク

ランチ会 生田

2023年度からはじめたランチ会は、ボランティアセンターを知ってもらうことや、来室者同士の交流の機会をつくり、仲間づくりの促進を図ることを目的としています。学生同士が気軽に対話できるようにするため、ボランティアセンターの職員は原則として成り行きを見守っています。

生田ボランティアセンターでは、ランチ会に限定せずに様々な切り口で、学生の来室動機につながるような試みをしています。

日時 2024年4月10日(水)～5月13日(月)

場所 生田ボランティアセンター

参加 26名

日時	タイトル	参加
4月10日(水)	脱!留年 絆作りランチ会	6
4月19日(金)	地方人あつまれ!	17
5月13日(月)	災害ボランティアって、どんな感じ?～少しでも興味ある人たち集合!	3

ボランティア相談会 生田

ボランティアセンターへの来室の動機付けとなるよう、学期はじめや長期休み前に相談会を開きました。

ボランティアセンターでは常時開室して学生のボランティアの相談にのっています。しかし、いつも開いていると逆に、開いているという情報を学生に伝えるすべが意外とないものです。そこで、ボランティアセンターでボランティア相談にのっていることを伝えるために、一定期間を相談会としました。具体的なボランティア例を記載して学内ネットで周知すると、はじめて来室する学生、なんとなくボランティアをしてみたいが、どんなボランティアがあるのかわからないので知りたいという学生が、特に4月の相談会に多く来室しました。

日時 ①2024年4月11日(木)～4月19日(金)

②2024年4月22日(月)～4月30日(水)(被災地支援ボランティア相談会)

③2024年7月3日(水)～7月12日(金)

④2025年1月14日(火)～1月31日(金)

場所 生田ボランティアセンター

内容 学生のニーズを聴き、ボランティア情報を紹介する。

参加 ①14名 ②0名 ③5名 ④9名

対話カフェ 中野

話したり聴いたり考えを深める「対話」を体感する場を、明大生に提供することを目的として開催しています。

日時 2024年4月19日(金)～11月25日(月)

場所 中野キャンパス

参加 学生63名

日時	テーマ	参加
4月19日(金)	「新学期の悩み」	7名
4月24日(水)	「新学期の悩み」	4名
5月14日(火)	絵本を題材にした哲学対話体験	2名
5月24日(金)	「理想的なコミュニケーションとは」	4名
5月29日(水)	「自分にとっての『居場所』とは何か」	4名
6月12日(水)	絵本を題材にして対話してみよう	3名
6月17日(月)	あえて物事を2極化して考えてみよう(その1)	5名
6月19日(水)	「エンタメに何を求めるのか?」	2名
6月21日(金)	あえて物事を2極化して考えてみよう(その2) 「生きていることは素晴らしいのか、それともつまらないのか」	4名
6月25日(火)	詩を題材にして対話してみよう「宮沢賢治:雨ニモマケズ」	4名
7月3日(水)	「エンタメに何を求めるのか?」	3名
7月8日(月)	絵本を題材にして対話してみよう	7名
7月12日(金)	「『きれい』とは何か?」	4名
7月15日(月)	「どこからが『考える』なのか?」	6名
10月21日(月)	問い出しゲームをやってみよう	2名
11月25日(月)	本質観取という手法で「『友だち』とは何か?」を考えてみよう	2名



活動の様子

韓国語教室 中野

中野キャンパスでは、明大生が明大生に韓国語や韓国文化を教えながら異文化交流を行う教室を毎年開催しています。

- 日時** 2024年5月8日(水)～7月11日(木)
2024年10月7日(月)～12月19日(木)
- 場所** 駿河台キャンパス・中野キャンパス
- 内容** 明大生が明大生に語学や文化を教える活動
- 参加** 学生291名

日時	場所	回数	講師学生	受講学生
5月13日(月)～7月8日(月) 13:30～14:30	中野キャンパス	7回	21名	56名
5月8日(水)～6月26日(水) 13:30～14:30	駿河台キャンパス	7回	7名	32名
10月07日(月)～12月16日(月) 15:20～16:20	中野キャンパス	7回	27名	36名
10月08日(火)～12月17日(火) 13:30～14:30	中野キャンパス	8回	24名	22名
10月10日(木)～12月19日(木) 16:00～17:00	中野キャンパス	6回	13名	8名
10月11日(金)～12月06日(金) 13:30-15:10	中野キャンパス	7回	27名	18名

講師学生の声



国際日本学部3年 糠信 美希

韓国語を活かしたいという思いから、ボランティア講師を始めました。

教えることで自分の理解が深まるという経験をし、また、韓国人留学生との交流を通じて、異文化理解を深める貴重な機会にもなりました。ネイティブの講師学生も、母国語を教えることに戸惑う場面があり、

非ネイティブの私が彼らの質問に答えられることも多く、お互いに教え合う関係を築くことができました。

この経験を通して、ボランティア活動は、自分のスキルアップだけでなく、他者とのつながりを深める素晴らしい機会であることを学びました。



授業の様子

中国語教室 中野

中野キャンパスでは、明大生が明大生に韓国語や韓国文化を教えながら異文化交流を行う教室を毎年開催しています。

日時	2024年5月9日(木)～7月11日(木) 2024年10月10日(木)～12月18日(水)
場所	和泉キャンパス・中野キャンパス
内容	明大生が明大生に語学や文化を教える活動
参加	学生77名



授業の様子

日時	場所	回数	講師学生	受講学生
5月9日(木)～7月11日(木) 13:30～14:30	和泉キャンパス	10回	10名	29名
10月16日(水)～12月18日(水) 15:30～16:30	中野キャンパス	8回	14名	18名
10月10日(木)～10月17日(木) 13:30～14:30	和泉キャンパス	2回	2名	4名



グローバル・ビジネス研究科M1 ZHU NANNAN

いろいろな国の、いろいろな文化背景を持つ学生たちと交流したいと思って、中国語教室に参加しました。母語話者として、中国語を教えたり、中国の文化を紹介したりする中で、みんなの興味を感じてとても嬉しかったです。特に、みんなが発音練習を頑張ったり、一生懸命ノートを取ったりしている姿を見て、本当に感動しました。

社会福祉

スポーツフェスティバル2024 和泉

和泉キャンパス近くにある杉並区の3つの運動施設を会場として一斉に開催される「スポーツフェスティバル」に、学生が運営サポートで参加しました。

大学近隣の住民の方々や子ども達とスポーツを通して関わることで、より地域を身近に感じる機会となりました。

日時	2024年10月14日(月)
場所	TAC杉並区永福体育館
内容	イベント運営補助(ビーチバレー)
参加	学生1名



ポスター

杉並区高齢者との「Ocha-kai」 和泉

和泉ボランティアセンターでは、地域包括支援センター「ケア24永福」と連携し、近隣地域にお住まいの方々と交流を深め、安心して生活できる地域づくりを目指した「Ocha-kai」を定期的実施しています。学生達が交流企画の検討・運営を担い、ボランティアセンターでサポートをしています。これまでに数多くの地域の方にご参加いただき、長年の活動が評価され、2024年度は杉並区より2度目となる「青少年善行表彰」をいただきました。

異なるバックグラウンドを持つ方々との交流を通じて新たな視点やアイデアを得ることで、さらに成長していくことと思います。

今後も地域の方々と繋がりを大切にしながら、継続的に取り組んでいく予定です。

〈第1回〉

- 日時** 2024年6月29日(土) 14:00～15:30
- 場所** 和泉キャンパス内教室など
- 内容**
 - ・ポッチャ大会
 - ・テーマを決めて歓談
- 参加** 学生7名、地域の方12名、ケア24永福職員2名、職員3名



歓談の様子



作戦タイム

〈第2回〉

- 日時** 2024年12月14日(土) 14:00～15:30
- 場所** 和泉キャンパス和泉の杜(学生食堂)
- 内容**
 - ・クリスマス縁日(オリジナルゲーム4種)
 - ・テーマを決めて歓談
- 参加** 学生11名、地域の方12名、ケア24永福職員2名、職員2名



集合写真



ゲームの様子

〈第3回〉

日時 2025年3月22日(土) 14:00～15:30

場所 和泉キャンパス内教室

内容 ・ゲーム大会(オリジナルゲーム2種)
・テーマを決めて歓談

参加 学生7名、地域の方12名、ケア24永福職員3名、職員2名



ゲームの様子



青少年善行表彰

参加学生の声



文学部3年 阿部 隼也

これまでお茶会には何度か参加させていただき、様々な経験をしてきました。その多くの経験が自分の成長につながっていると感じます。

例えば、参加者に楽しんでいただけるような企画を作成するということ。これの難しい点は、楽しいだけのゲームでは相応しくなく、楽しめる上で高齢者の方が理解しやすく、安全に行えるものが求められます。私たちは、様々なレクリエーションを組み合わせ、メンバーや空間に合わせてゲームをアレンジし実行していきます。大変な作業ではありますが、メンバーと試行錯誤していく中でよりよいものが見つけれられたときには、やりがいを感じます。

また自分は、当日の司会進行に携わることが多いため、人前で話す力が以前よりも向上したと思います。参加者はどのような話が好きか、どのような言い回しだとより盛り上がるのか、考えることが多いですが、そこが楽しい点でもあります。

お茶会は穏やかなメンバーばかりで、とても過ごしやすいチームです。その雰囲気を読んで、毎回参加して下さる方々も多いので、これはお茶会の強みにもなっていると思います。

高齢者の方々と私たち大学生は普段関わる機会が少ないからこそ、こういった場で交流できるのはお互いにとっても良い機会です。今後も明治大学の学生と地域の高齢者の方々の交流を深める場として、お茶会が続いていくことを願っています。

体験イベント

「ブラインドウォーク・高齢者・点字」 和泉

和泉ボランティアセンターでは、学生にもっと気軽にセンターに足を運んでもらおうと、センター内で「ブラインドウォーク・高齢者・点字」の体験を実施しました。模擬体験装具を着けた学生は僅か数メートル歩くだけで高齢者に対する認識が変わり、手助けの必要性を感じていました。点字の体験後に早速サークルの名刺に点字を取り入れた学生の姿も見られました。高齢者体験では、年齢を重ねることを前向きに捉え、自分事として対策を考える学生が多かったことが印象的でした。

また、体験後には、家族支援や社会的介護のあり方について考えるきっかけになるよう、併せてアンケートを実施しました。

日時 2024年11月18日(月)～21日(木) 10:00～16:30

場所 和泉ボランティアセンター

内容 ①高齢者模擬体験セットを装着し荷物を持って歩行
②白杖及びアイマスクを着用し歩行または手引きを行う
③点字器で名刺などを作成

参加 15名



高齢者疑似体験



アンケート (Google フォーム回答)

①今回のイベントについて、どこで知りましたか？

Oh-o! Meiji、和泉ボランティアセンター公式LINE、ボランティアセンターのポスター。

②感想

- ・高齢者を労わろうと思いました。歩くだけで腰に負担がかかります。目が見えないと聞こえる音が怖くなります。「なにか手伝いましょうか？」と声をかけられるだけで安心しました。白杖をもっている方が困っている様子でいたら声をかけてみようと思います。
- ・点字は実際に読める人は17%と聞いて少し納得しました。
- ・打つのも読むのも練習が必要だと分かりました。職員さんのレッスンは分かりやすく楽しかったです。名刺に点字を入れてみたいです。
- ・時間がなかったのですが素早く装着してもらい、短時間でも楽しく体験ができました。

クリスマス音楽会 和泉

杉並障害者福祉会館で行われた「クリスマス音楽会」に、公認サークル津軽三味線「響」が参加しました。クリスマスの曲を含めた全6曲を演奏し、津軽三味線の豪快で深く豊かな音色が会場に響き渡りました。観客の方々は、曲に合わせて歌ったり、リズムを取ったりしながら盛り上がっていました。

日時 2024年12月8日(土) 13:30~14:30

場所 杉並障害者福祉会館

内容 【曲目】

覚醒(津軽三味線集団 疾風)

ソーラン節

クリスマス曲

(赤鼻のトナカイ、あわてんぼうのサンタクロース、サンタが街にやってくる)

津軽じょんがら節六段

隼(吉田三兄弟)

大会じょんがら

参加 6名

主催 杉並障害者福祉会館運営協議会



演奏の様子



文学部2年 石上 奈々実

2023年度に引き続き、2024年も杉並障害者福祉会館でのクリスマス会で演奏させていただきました。民謡や現代曲、クリスマス曲など様々な楽曲を演奏し、会場にいらした方々に津軽三味線らしい力強い音を届けられたのではないかと思います。

クリスマス曲は、この日のためにメンバー全員で練習し、不安もありましたが、演奏を聞いてくださっていた方々がサイリウムを振って盛り上げてくださり、また一緒に歌ってくださる方も多く、楽しく演奏することができました。一曲演奏を終えるごとに大きな拍手をいただき、演奏を楽しんでもらえたのだと実感しました。

施設の方々には、演奏前や終わった後にあたたかいお声をかけていただきました。私は2023年のクリスマス会演奏にも参加していたのですが、前回と変わらず、あたたかく迎えてくださったことをとても嬉しく思いました。

今回は、幹部の代替わり後初めての外部での演奏で、慣れないことも多く、緊張していましたが、施設の方々や会場にいらした方々のあたたかい雰囲気のおかげで、肩の力をぬいて、トップバッターとして演奏会を盛り上げる演奏ができたと思います。

またご縁がありましたら、演奏させていただきたいです。

子ども

ホームカミングデーへの協力 駿河台

ホームカミングデーは、本学のステークホルダーである校友を主な対象として、母校愛の醸成、校友同士の親睦強化、大学の近況(母校の取り組み)の周知、寄付の促進等を目的として実施されています。駿河台ボランティアセンター直属学生ボランティア団体Treeは、ホームカミングデーに毎年協力し、来場者が楽しめる企画を行っています。

日時	2024年10月27日(日) 10:00~16:00
場所	駿河台キャンパスアカデミーコモン2階
内容	ホームカミングデーにおいて、輪投げ・的当て・エコキャップすくい・ビンゴなどで、来場者を楽しませるブース「めいじろう縁日」を出展した。
参加	48名(駿河台ボランティアセンター直属学生ボランティア団体Tree)



国際日本学部4年 齋藤 眞子

今回Treeで出店した「めいじろう縁日」では、約500名の方々が来場していただき、会場は活気にあふれ、大変盛り上がりしました。事前準備で忙しい期間もありましたが、多くの方々に満足していただけたことを嬉しく思い、特に子どもたちの笑顔を見ることができたときは何よりの幸せを感じました。



めいじろう縁日の様子

「明大生とキンボール体験！！」 大学生と楽しくニュースポーツしてみませんか？

和泉

和泉キャンパス近隣の小学校で、児童にニュースポーツ「キンボール」を知ってもらい、一緒に楽しむことを目的に、キンボールを主として活動している公認サークルOne Colorが活動しました。

日時 2024年9月26日(木) 14:30～16:45

場所 杉並区立杉並和泉学園

内容 ①練習(ヒット、キャッチ等)

②リレー対決

③試合(学年ごとのチーム対抗)

④試合(小学生vs大学生)

参加 9名(キンボールサークル「ワンカラー」)

主催 杉並区立杉並和泉学園いずみんなクラブ

参加学生の声



文学部3年 菊入 優芽花

今回、このキンボールという積極性や協調性を育めるスポーツを子ども達に伝えたいという主旨のもと企画しました。キンボールの魅力は、年齢を問わず楽しむことやコミュニケーションを取りながらチームで協力することにあります。当初、小学生がキンボールに興味を持ってくれるか不安でしたが、子ども達がボールを使ったゲームやキャッチ練習、試合を楽しむ姿を見て安心しました。キンボールを通じて子ども達の笑顔を引き出しつつ、コミュニケーションや協力の大切さを伝えられたことは私達にとって良い刺激になり、この機会を得たことは貴重な経験となりました。



準備の様子



参加学生の集合写真

竹とんぼ教室 和泉

子ども達に竹とんぼ教室を行う団体「どこ竹@竹とんぼ教室」が、杉並区内の公園や児童館、お祭りなどで開催する教室に、学生が先生役のボランティアとして参加しています。事前に作り方や注意事項を学ぶための講座を受け、子ども達との交流を通して外で遊ぶことやものづくりをする楽しさを伝える活動を行っています。

日時 2024年9月13日(金)～2024年11月30日(土)

参加 10名

連携 どこ竹@竹とんぼ教室

〈竹とんぼづくり教室〉

日時	会場	参加
2024年9月13日(金)	下高井戸子供園	2名
2024年10月2日(水)	上高井戸児童館	1名
2024年10月20日(日)	杉並区立柏の宮公園	2名
2024年11月10日(日)	杉並区立柏の宮公園	2名
2024年11月30日(土)	向陽スポーツ文化クラブ	3名

科学博士になろう 生田

生田キャンパス近隣の児童館で開催している恒例の科学教室プログラムです。企画の学生は月曜日の昼休みにセンターに集まって試作しました。また、当日の運営のために、他のキャンパスからも学生が参加しました。

日時 A:企画
2024年5月27日(月)～6月10日(月)
(全3回)

B:準備
2024年5月20日(月)～6月7日(金)

C:教室運営
2024年6月15日(土)

場所 A、B:生田ボランティアセンター
C:三田こども文化センター

内容 小学生むけ科学教室の開催

参加 20名(A:9名 B:3名 C:8名)

体験 小学生24名

方式 学年の近い小学生2～3人に明大生1人が寄り添う小グループ方式

テーマ 牛乳パックで作った羽とゴム動力で高く飛ぶ紙トンボを工作して飛ばす実験



試作の様子



当日運営の様子



子どもたちの声

- ・たかくとんだし楽しかった
- ・くみたてるのが楽しかった
- ・あまりとばなかったので家でリベンジしたい



参加学生の声

農学部 匿名

高校生のころからボランティアを行ってみたいかと思ったのですが、「まだ、1年生だし、できることないかも」と思ってボランティアを行うことを躊躇していました。ボランティアが1日でしたので、気軽に参加することができました。もっと早くボランティアをしたら視野が広がっているいろいろな選択肢が見えるのかなと思いました。子どもたちと話すのがとても苦手でしたが、子どもたち興味をもって取り組んでくれたので子どもたちのお話をするのもできて楽しかったです。子どもたちの目線になって一緒に工作をしたり、お話ししたりすることで子どもたちの気持ちを多少理解できたのかなと思います。子どもたちのしっかりとした考え方に感心させられました。中でも、仕組みに興味を持ってくれた子もいました。できれば答えてあげたかったのですが、きちんと理解できていなかったのと物理的な仕組みを説明することが苦手でできませんでした。うまく説明することができるように勉強しておきたかったなと悔しい気持ちになりました。身近な時にも勉強が活かせる機会があることがわかり、今後は一生懸命に勉学に取り組み、ボランティアなどを含めて社会に還元していきたいなと思いました。

実験テーマ創り②+科学博士になろう② 生田

生田キャンパス近隣の児童館で開催している恒例の科学教室プログラムです。少人数で始まったこの企画でしたが、途中のミーティングからは参加者が増えました。教室運営はテーマ創りに参加した学生が行いました。今回は学生たちの考えで、いわゆる講義スタイルで行われました。

なお、実験を安全に行うために、理工学部の本多教員にアドバイスをいただきました。

日時	A：テーマ創り 2024年11月7日(木)～12月12日(木) 毎週木曜 昼休み 全6回 B：準備 2024年12月6日(金)～12月13日(金) C：教室運営 2024年12月14日(土)
場所	A、B：生田ボランティアセンター C：生田ボランティアセンター、三田こども文化センター
内容	小学生むけ科学教室のテーマ創りと開催
参加	31名(A：17名 B：7名 C：7名)
体験	小学生10名
方式	講師役の学生1人を囲むようにコの字に配置された机の前に小学生が座る。小学生1～2人おきにサポート役の学生が座って実験を見守る。
テーマ	電気の子カラで水の色を変えてみよう！ ①アントシアニンを含んでいるバタフライピーに水を入れて青い溶液を作る。溶液に少量の食塩水を入れ、小さいプラカップ2つに入れ、プラカップの間にその溶液を浸したろ紙で塩橋を作る。

その後、それぞれのプラカップに、9V電池を接続した鉛筆の芯の電極を入れる。電気分解の過程で、溶液の色が徐々に変わっていくのを観察する。(pHの変化によって色が変化する)

②9V電池を外し、代わりにオルゴールを接続すると、オルゴールがしばらくの間鳴り続けることを確かめる。(燃料電池を体験する)

監修

本多 貴之(理工学部准教授)

連携

三田こども文化センター



子どもたちの声

色が変わるのをみれて楽しかった



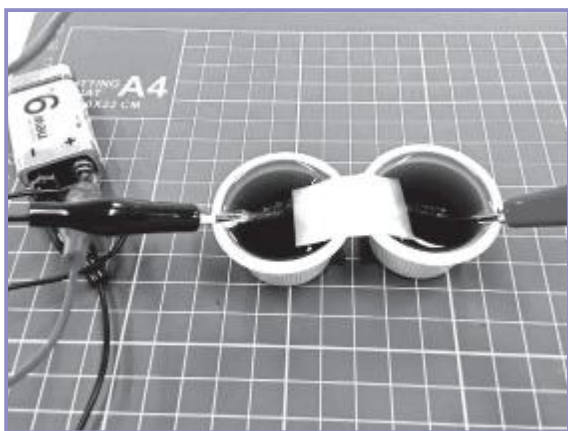
企画学生の声

農学部 匿名

企画の開始当初は人が集まらず実施に不安がありましたが、最終的には多くのメンバーが集まってくださったことで当日の運営は順調に進みました。実験当初は電気の力を視覚的に感じてもらうことを目的として考えましたが、原理が複雑だったこともあり小学生には難しいという指摘の声もメンバーから頂きました。私自身このようなボランティア活動は初めてであり、小学生に適した難易度の実験を考えた経験はなかったため難しいものになってしまったように感じます。

ただ、当日のメンバーのサポートもあり小学生は楽しそうに実験を行っていました。私は子どもたちと接する経験があまりなかったため接し方に苦戦しましたが、最後に感想を尋ねた際に、多くの子どもたちが笑顔で「楽しかった」と答えてくれた時には企画に携われて良かったと心から感じました。

この活動を通して、対象年齢に合わせた企画を考えることの難しさと、そこで得られるやりがいを実感しました。化学は難しく苦手意識を持つ人も多いですが、この企画に参加してくれた小学生の、科学に対する興味が少しでも強くなっていれば幸いです。



アントシアニンを含んだ青い溶液を
電気分解しているところ



開催中の様子

かわさきサイエンスチャレンジ 生田

2024年度も川崎市最大のこども科学教室に出展しました。実験テーマは、「光のふしぎ～光のブーケをつくろう」。2023年度秋学期のテーマ創りの内容を一部変更してワークショップを行いました。学習要素も一部入った内容となりましたが、子どもたちが観察し、実際につくってみて「楽しい」と感じられる科学教室をめざしました。学生たちは、事前にミーティングを行い、当日の運営方法等を考えました。

- 日時** ①実験練習会 2024年7月2日(火)、7月12日(金)
②リハーサル 2024年8月2日(金)
③教室運営 2024年8月3日(土)
- 場所** ①②生田ボランティアセンター
③かながわサイエンスパーク
- 内容** 小学生向け科学教室の開催
- 参加** 22名(①13名 ②4名 ③5名)
- 体験** 小学生40人
- 方式** 小学生2人に明大生1人が講師としてつく小グループ制。

- テーマ** 光のふしぎ～光のブーケをつくろう
水の入ったペットボトルにレーザー光を当て、一定条件下で光が全反射することを観察する。その後、テグスとライト等を使ったブーケづくりをして、光がテグスの中で全反射することを確かめる。



光の全反射

参加学生の声



理工学部3年 H. S

今回、初めてボランティア活動に参加しました！未経験者である自分が役に立っているか悩みましたが、元々生田ボランティアセンターの存在が気になっていたので、思い切って応募してみました。

普段小学生と関わる機会が無いので、どのように説明すると理解してもらえるか、どこまで自分たちで考えたり作業できたりするのかなどを、完全なる想像で補って当日に挑みました。不安はありましたが、今回一緒に参加した他の学生がどのように小学生にアプローチしているかを観察し、良いなと思ったことを自分の行動に取り入れることで、小学生から素敵な反応をもらえることができました。特に、自分で作った美しい光のブーケに感激している様子はとても達成感がありました。

私が力を入れたのは、全反射についての説明を行うところです。理科に馴染がない年頃の子どもたちに対して、どのようにしたら面白い現象が起きているのかを知ってもらえるのか、説明を聞く立場をイメージして説明の構成を立てました。また、保護者の協力の度合いによって、作業ペースが子どもに差が生じてくるため、時間内に完成できるような時間配分や、時間が余って手持ち無沙汰になることがないように詳しい説明を用意することの重要性を感じることもありました。

来年、教育実習に挑む学生として、今回のボランティアは楽しいだけでなく、とても学びを得た機会でした。

農学部 匿名

8月3日にかわさきサイエンスチャレンジでボランティアをしました。私にとって、初めてのボランティア活動でした。ずっとボランティア活動をしたと思っていたのですが、なかなかする機会がありませんでした。ですが、今回のボランティア活動は1日のみだったので気軽に参加することができました。

当日は、来場してくれた子どもたちと親御さんに光の全反射の仕組みを中心に説明した後、光のブーケを作るお手伝いをしました。子どもたちの中には、光の仕組みについて様々な質問してくれた子どももいました。質問にちゃんと答えることができて良かったのですが、これは事前に行なった準備のおかげでした。

私は子ども達と関わるのが好きなので、今回のこの活動はとても楽しかったです。興味津々に私達学生スタッフの説明に耳を傾けてくれる小学生の子ども達に元気を貰いました。

今回のボランティア活動がとても楽しかったので、どんどん積極的にボランティア活動に参加して行こうと考えています。

子ども達の笑顔と感謝の言葉がとても嬉しく達成感溢れる1日となりました！



予行演習の様子



教室運営の様子

液体窒素実験 生田

液体窒素を用いた2種類の実験を生田キャンパス内で行うイベントです。生明祭では恒例のワークショップとなっていますが、2024年度は、生田オープンキャンパスへの出展も行いました。2022年度から導入したチーム制で実施しました。4キャンパスから集まったボランティアの明大生たちは、チーム内で分担交代しながら、安全でスムーズな運営を行い、学生相互のコミュニケーションを図ることができました。

日時

- ① 2024年8月6日(火) 〈生田オープンキャンパス〉
- ② 2024年11月2日(土) 〈生明祭〉
- ③ 2024年11月3日(日) 〈生明祭〉

場所

- ①③生田キャンパス 屋外ブース
- ②生田キャンパス 屋内ブース(雨天のため代替スペースで実施)

内容

「極低温・超伝導の世界を体験しよう」

3テーブルに分かれて実験を行う：

- A 極低温の実験…液体窒素で{バナナ、ゴムボール、酸素、二酸化炭素}を冷却する
- B 極低温の実験…液体窒素で{ゴム風船、ピンポン球、バラ、ほうれん草}を冷却する
- C 超伝導の実験…リニア中央新幹線にも使用される超伝導体を使い、磁気浮上やピン留め効果の、不思議な感触を体験する

参加

23名(①10名 ②7名 ③6名)

体験

約500人(①高校生 ②一般来場者で多くはファミリー層)

方式

屋外ブースに、原理説明ポスターを掲示する。明大生ボランティアは3つのチームに分かれ、チームごとに各テーブルの実験を運営する。来場者にデモ実験を見せたり、安全な範囲で来場者が実験を体験できるようサポートし、安全メガネの消毒を行う。また、実験の待ち時間に来場者に話しかけたり相談に乗ったりする。各チームは交代してすべてのテーブルの実験ボランティアを経験する。

発案

安井 幸夫(理工学部教授)

引率

- ①岩瀬 顕秀(理工学部教授)
- ②安井 幸夫(理工学部教授)
- ③本多 貴之(理工学部准教授)

待機

井上 全人(理工学部教授)

参加学生の声



理工学部2年 高山 愛(①に参加)

今回の活動を通して、高校生の進学に対する関心度の高さに驚いたと同時に、進路の悩みややりたいことを見つけることの難しさを思い出し懐かしさも感じました。

私が高校生だった頃は、コロナの真っ只中だったので、対面のオープンキャンパスはなく、画面越しで在校生とお話するだけだったので、学校や学生さんの雰囲気を感じ取ることができず、進路は自分がやりたいことは何なのかを考えること

でしか決め手がありませんでした。しかし、対面で雰囲気を掴める今、やりたいことももちろん大事ですが、自分が楽しんで学べる環境を探すことも決め手の1つになっています。オープンキャンパスはその手段の1つなので、できるだけありのままの自分、すなわちありのままの明大生を伝えることを通じて、高校生が心から明治で学びたいと思って明治を選んでくれたらいいなと思いながら活動していました。

実際活動していると、高校生に伝えるだけではなく、実験の手順や仕組みを伝えるにあたり、わかりやすく伝えるために、頭の中で順序立ててわかりやすい言葉を選んで発言することはとても難しいなと感じたのと同時に、今後の実験やレポートなどで順序立てて進めていくスキルの強化に繋がったなと思います。また、実験自体も自分の知らない知識ばかりで、教授から教わることも多く、このボランティア全体で私自身が学ぶことが数多くあり、とても貴重な機会に参加できて本当に良かったと思っています。

ボランティアに参加していただいた他の学生の方々も自ら手伝いたいと手を上げてくださった方々だけでなく、とても意欲的で協力的な方々ばかりで一緒に作業していてとても楽しかったです！

多方面で自分自身が得たことばかりではありますが、少しでも高校生の進路選択の力に、またオーブンキャンパスの楽しい思い出のかけらになれていたら嬉しいなと思います！

農学部 匿名(②に参加)

今回が大学生になってから初めてのボランティア活動でした。友人が誘ってくれたことがきっかけとなり、農学部生である私が行う普段の実験とは全く違う実験が出来ることに魅力を感じたため、参加を決めました。液体窒素で瞬時に物を凍らせる様子はテレビで見たことがありましたが、実際に体験してみると迫力があって、ものが冷やされて性質が変化するという当たり前のことも、目に見えて、楽しく学び直すことができました。また、最近身近になりつつある、リニアの技術に応用される基本的な原理を目の当たりにして、リニアに対する考えが深く、多角的になりました。

実験を楽しんでもらえるようにお話するのが難しかったですが、見た現象をそのままにしないで、一步踏み込んだ先の「どうしてこうなるのか」を知ろうとしてくれていたので、科学を学ぼうとするきっかけに少しは関わられたかなと、嬉しく思います。

今回の活動を通して、十分な知識と相手に伝えるための言葉力がないと、科学の面白さを広められないと実感しました。アウトプットも意識して、これからの学び方を工夫したいです。また、挑戦したからこそ得られるものがあったということをお忘れず、何事にも積極的に取り組むことを心がけたいです。

これからも、誰かの役に立つだけでなく自分の成長にも繋がる貴重な経験を積める、ボランティアという活動から様々なものを吸収していきたいです。



事前講習の様子



来場者が体験する様子

小学校でのプログラミング授業のサポート 生田

2022年度より、理工学部と川崎市立三田小学校の連携事業として、プログラミング学習の出前授業が行われています。理工学部情報科学科の井口幸洋教授が5年生を対象に、Scratchを使ったアニメーションの動かし方や簡単なゲームの作り方を教えました。2024年度は、6年生を対象としたmicro:bit (マイクロビット) のシステムでロボットを動かす授業も追加となりました。理工学部の学生13名がボランティアで児童のサポートをしました。



事前講習の様子

5年生の児童たちは最初は緊張した面持ちで授業を受けていましたが、自分のタブレットの中のスプライト (キャラクター) が動いたり鳴いたりすると、それに興味津々となりました。しばらくすると、好奇心いっぱい積極的に授業に取り組む児童が多く見られました。一方で、Scratchに初めて触れる児童も多く、複数のスプライトを動かすためにそれぞれにコードを書くという作業に戸惑ったり、ゲームを作る時に使う変数を作ることが難しい児童もいました。学生たちは、児童たちを見守り、途中でつまづいた児童たちには寄り添って丁寧にフォローしていました。

6年生の授業は、児童2人1組で進められました。いずれかの児童が自身のGIGA端末 (Chromebook) に書いたコードを、端末からUSB端子に接続した基盤にダウンロードし、車輪の付いたロボットに読み込ませていました。ロボットの動きを観察するため、多くの児童は教室の床に膝をついていました。ロボットがコードどおりに動くと、児童たちから一斉に歓声が上がりました。

両日とも授業終了時に理科室から退出する児童たちからの感謝の言葉を受け、学生たちはやりがいを感じ、とても喜んでいました。

日時	① micro:bit 事前講習 2024年8月1日 (木)
	② Scratch 授業 2024年9月10日 (火)
	③ micro:bit 授業 2024年9月17日 (火)
場所	① 生田キャンパス教室 ②③ 川崎市立三田小学校
内容	小学校の総合的な学習の時間「プログラミング学習」授業にて児童のサポートを行う。
参加	19名 (①6名 ②7名 ③6名)
体験	小学生 約170名 (①約80名 ②約90名)
引率	井口 幸洋 (理工学部教授)



授業中の様子

美しい海を未来へ残そう！inバリ島 和泉

日時 2024年10月27日(日)～11月3日(日)

場所 インドネシア

内容 環境問題を本気で考え、本気で取り組みたいと思っている学生を対象とした8月の前活動から11月以降の事後活動も含めて、長いスパンでじっくり取り組むプログラム。

《バリ島での活動》

- ・マングローブ林のごみ回収
- ・資源のリサイクル施設での活動
- ・サンゴの保護活動
- ・ごみ山の訪問
- ・現地団体と一緒にビーチクリーン
- ・公のごみ処理施設がないバリ島でのごみの回収の仕組みを学ぶ

参加 2名

主催 日本財団ボランティアセンター

センターの役割 相談、場所の提供



ビーチクリーンの様子

ごみ拾い活動 「ともだちつくりとごみひろい」 和泉

明大生の環境問題への意識を高めることを主な目的として、「パトラン明治大学支部」と「ボランティアサークルRelief」の協力を得て開催しました。

ミッションをクリアしながら、ごみ拾い活動だけでなく新入生同士や先輩とのコミュニケーションの場をつくることにも重点を置き活動しました。和泉キャンパス周辺の地域社会の一員としての自覚を持ち、身近なことから社会貢献できることを知る機会となりました。



配布物

日時 2024年5月9日(木) 昼休み

場所 和泉キャンパス周辺

内容 グループに分かれ自己紹介をしてメンバーとの共通点を探ること、ごみの多い場所をチェックすることをミッションとして活動した。

参加 8名

協力 パトラン明治大学支部
ボランティアサークルRelief (6月より公認サークル)



活動の様子

実験テーマ創り1 生田

2024年度に新設したこの企画は、例年11月に柘形中学校で開催されている環境ワークショップのテーマ創りまたは子ども科学教室の実験テーマ創りを想定して行われました。学内ネットでのメンバー募集を見た学生達が、昼休みにあつまりました。この活動では、2つの実験が行われました。実験内容を秋学期にどうつなげていくかが課題でした。結果として、下記テーマ②の実験が環境ワークショップの出展テーマに採り入れられました。



②の実験の様子

日時	2024年5月17日(金)～7月8日(月)の昼休み(不定期) 全5回
場所	生田ボランティアセンター
内容	環境問題を考えるための実験テーマ創り
参加	17名
テーマ	①柑橘類の皮に含まれるリモネンでゴム風船を割る実験 ②納豆菌で紙に文字を書く実験
方法	①オレンジの皮を絞ってリモネンを抽出し、リモネンをゴム風船に塗って風船を割る。リモネンがゴムを分解するのを確かめる。 ②納豆に水を入れて攪拌し抽出した液体で、デンプンを含んだ水に浸した紙に文字を書いてみる。納豆菌に含まれるアミラーゼがデンプンを分解するのを確かめる。

清掃活動 中野

ボランティア活動の第一歩として気軽に参加できる清掃活動には、様々なキャンパスや学部からの学生が参加しています。留学生も参加しており、母国との違いについても話してくれました。

学生からは、中野キャンパスへ向かう際に見た歩道は一見ごみが見当たらずきれいに見えたけれど、実際に清掃活動を行うと、ごみが次々と発見されて袋一杯になりとても驚いたとの報告がありました。清掃活動へ参加することで、街への視点や考えが変わることを体感したようです。

清掃活動を通じて街をきれいに保つ意識を高められるよう、これからも続けて活動を行っていく予定です。

日時	2024年6月11日(火)・7月9日(火)・10月25日(金)
場所	中野キャンパス周辺・中野駅前
参加	学生12名



活動の様子

環境ワークショップへの出展

生田

生田キャンパス近隣にある中学校で『人類の可能性』をテーマにワークショップが行われ、学生達が授業を行いました。

川崎市立柘形中学校は、総合学習として、エネルギー・環境教育に取り組み続けています。毎年11月にワークショップが行われ、10以上の企業や団体が中学生に授業を行っています。

2024年度は、生田キャンパスの学生から広くボランティアを募集しました。20名を超える学生が応募し、実験班と授業の構成を行う教育班に分かれて活動しました。

日時

①企画 2024年10月4日(火)～11月14日(木) 全8回

②授業運営 2024年11月15日(金) 13:40～15:10

場所

①生田ボランティアセンター

②川崎市立柘形中学校

内容

中学校の総合的な学習の時間にて環境に関する授業を行う。

参加

117名(①106名 ②11名)

体験

中学生33名

《授業の目的》

- ・実験及び授業を通して、納豆菌の食べることで環境への活用法を学ぶ。
- ・授業を受けた生徒達が各自でSDGsについて考え、気づいたこと、行動することをまとめ、テーマについて理解を深める。

中学生の声



- ・納豆菌によって作られた生分解性プラスチックを使うことで環境問題へのアプローチになるのではないかと思った。
- ・自分にできるSDGsに対する行動はたくさんあることがわかった。

参加学生の声



農学部2年 松本 麻代

環境ワークショップの準備では、内容を決める企画班と実験の準備を行う実験班に分かれており、私は企画を担当しました。企画班には知り合いがいなかったため、積極的にコミュニケーションをとることを意識しました。はじめは中々意見が出ませんでした、「何を伝えたいのか」を中心に授業の進め方を決めていくことができました。最も話し合いに時間がかかったのはテーマ決めでした。納豆菌を用いた実験を行うことは決まっていたのですが、納豆菌から中学生に何を伝えたいのかが中々決まりませんでした。しかし、「良い授業を作りたい」という気持ちが話し合いを重ねるうちに大きくなり、各々が意見を出し合うことで全員が納得する授業を作ることができました。

ワークショップ当日、実験操作は全体の説明だけでなく、グループに付き添う大学生がアドバイスすることで、参加した生徒全員が楽しんで実験を行うことができました。コミュニケーションの取り方や伝わりやすい言葉選びなど、実際に中学生と話すことで得られた学びがありました。

ワークショップの企画・運営を通して、企画を効率的に決める話し合いの方法、中学生へのわかりやすく伝える方法を実践的に学ぶ機会となりました。

農学部2年 田中 秀磨

私は環境ワークショップの企画を楽しく考えることができたが、「山あり谷あり」の難しいイベントでした。

最初のおつまりで、実験班、教育班の班分けをして、イベントのテーマを決めました。私は教育班として活動することになり、環境や結論に繋げやすいテーマにしたいと思いました。しかし、結果は「納豆菌」になりました。どのように結論づけるのかと難しいテーマになってしまい、これからは不安になりました。調べてみると、土壌改良剤や液肥、生分解性プラスチック、保水材など、研究途中のものもあるが、予想以上に使用されていて、驚きました。

そこからは順調に進んでいると思ったが、だんだん時間がないことに気付きました。しかし、皆で頑張り、最後の最後まで話し合いを重ね、なんとか乗り切り、間に合わせることができました。

私はこのイベントで少ない時間ではありましたが、多くの成長を得たと思います。

班長として人をまとめること、積極的に動くこと、班同士の調整をすることなどが、皆の支えがあり、務めることができました。

イベント後、中学生から多くの「楽しかった」や印象に残ったことや驚いたことについてなどの言葉がもらえて、うれしかったです。

ぜひ、次の活動の機会があれば参加したいと思いました。



ミーティングの様子



納豆から生分解性プラスチックを作る実験

3大学連携オンライン講座 **駿河台** **和泉** **生田** **中野** 「琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来2024」（関西・法政・明治3大学連携事業）

2023年度に引き続き、2024年度はオンラインで開催され、本学からも学生と職員が参加しました。

日時 2024年9月13日（金） 13：30～15：00

方法 Zoom

内容

- ・講義（琵琶湖の環境保全について）
- ・関西大学学生スタッフからの琵琶湖での活動紹介
- ・ブレイクアウトルームに分かれての意見交換及び交流会

参加 明大参加者（学生2名、職員1名）

目的 専門家の講義により、琵琶湖の環境保全、特定外来生物、および、駆除活動の概要・心構えなどについて学ぶとともに、3大学学生同士の交流の場を持つことにより、今後の3大学連携活動の一助とする。

講師 中井 克樹 氏（滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員／滋賀県琵琶湖環境部 自然環境保全課 副主幹）

主催 関西大学ボランティアセンター

参加学生の声



明治大学参加者 事後アンケートから抜粋

- ・大学の授業で自然に関するものを取っており、環境保護について興味があり、参加しました。外来種の全てが悪い影響を環境に与えるのでは無いと知り、非常に勉強になりました。
- ・去年、琵琶湖博物館に行き、琵琶湖について知ることが出来てとても面白いと感じたため参加しました。特定外来生物などの知識もつけることができ、とても面白かったです。

学生の自主的な活動の支援

能登半島での被災地支援活動 (公認ボランティアサークル LINKs)

日時	①2024年7月6日(土)～2024年7月7日(日) ②2024年8月5日(月)～2024年8月8日(木) ③2024年9月15日(月)～2024年9月18日(水)
場所	石川県七尾市周辺
内容	災害復興支援 主に家財出し
参加	①2名 ②7名 ③8名
協力	災害NGO 結
センターの役割	相談

参加学生の声



農学部2年 飯田 莉代

今回、私は能登半島での2回目のボランティア活動に参加しました。廃校になった学校を拠点に拠点に活動を行う「結」にお世話になり、家財の整理やお宅の清掃に従事しました。地元の方々から被災当時の状況やその後の生活についてお話を伺い、様々なことを学ぶことができました。

特に印象に残ったのは、半年が経過した今でも、多くの家が倒壊したままであり、復興への道のりが非常に長いことを実感したことです。また、活動を通じて、物理的な復興だけでなく、心のケアや精神的な支援が必要だと強く感じました。家財を整理する際には、住民の方々と話しながら分別を行いました。中には「後で自分で片づける」と整理に対してためらいを見せる方もいらっしゃいました。これは、物と向き合う時に、被災の状況とも向き合う必要がある、そんなつらさがあるためだと感じました。自然災害は誰のせいでもないからこそ、皆さん気持ちの向けどころにも困っているようでした。

この経験を通じて、復興活動には心のケアが欠かせないことを痛感しました。私達学生ボランティアができることは限られていますが、現地の方々と直接お話しし、彼らの気持ちに寄り添うことで少しでも支援の気持ちが伝わればと感じました。復興には長い時間がかかります。継続的な支援の重要性を忘れず、今後も積極的に支援活動に参加していきたいと思えます。



復興活動の様子

留学生との日本語交流ボランティア (Tree)

日時	2024年9月17日 (火) 15:40~17:30
場所	カイ日本語スクール校舎 (東京都新宿区)
内容	留学生と日本語でフリートークを行い、留学生の日本語力向上に貢献する活動
参加	学生5名

参加学生の声



政治経済学部4年 大畑 里奈

Treeの参加者1名に対して留学生1~4名のグループを組み、フリートークを行った。日本の文化や留学生の出身国の話などをして、どのグループも盛り上がっていた。年齢も経歴もバラエティに富んだ留学生と交流することができて、私自身も貴重な経験ができたと感じている。今回、トークテーマ等は特になく完全にフリーであった。そのため、事前にある程度話す内容を決めておけば、もっとスムーズにトークを進めることができたのではないかと思った。この反省を、次回以降活かしていきたい。ボランティア参加者からも「楽しかった、また参加したい」との声が多かったため、今後も募集があれば継続的に参加していきたい。

第13回 NIPPON ITチャリティ駅伝 (Tree)

日時	2024年11月9日 (土)、10日 (日)
場所	お台場セントラル広場
内容	チャリティ駅伝の前日準備 (資材搬入・設営)、当日の運営 (誘導・撤去作業)
参加	15名
主催	NIPPON ITチャリティ駅伝実行委員会

参加学生の声



商学部4年 村上 修弥

NIPPON ITチャリティ駅伝は今年で13回目の開催となるが、ボランティアとして参加するのは初めての試みだった。しかし、大会前に主催者側が事前説明会や顔合わせの機会を設けてくださったことで、大きな心配もなく当日に臨むことができた。当日は参加者・観戦者が思っていた以上に多かったことで、やや吃驚したが、主催者側とうまく連携を取ることで、当団体の学生全員が与えられた役割を全うすることができた。学生間でのコミュニケーションも盛んに行われたことで、懇親をさらに深める機会にもなり、非常に実りのある活動であった。来年度に向けての打ち合わせも既に始まっているので、今年のノウハウを継承して、当団体がさらに大きく寄与することを期待する。

TABLE FOR TWO (公認ボランティアサークルぱれっと)

TABLE FOR TWO (略称:TFT) は、開発途上国の子ども達と先進国の私たちが、食事を分かち合い、食の不均衡を解消することを目標とした活動です。食堂の方にご協力頂きながら、自分達で考案したバランスの良いメニューを学生食堂で提供しています。1食につき20円(開発途上国の給食1食分)をTABLE FOR TWO internationalに寄付し、栄養問題の解決に向けての支援につなげています。世界の食の不均衡や、「食と健康」、世界の食糧事情について考えるきっかけになることを目指して活動しています。



ポスター

- 日時** ①2024年6月10日(月)~6月14日(金) 昼休み
②2024年12月9日(月)~12月13日(金) 昼休み
- 場所** 和泉キャンパス和泉の杜(学生食堂)
- 参加** ①7名 ②8名
- 協力** 株式会社ハートフルダイニング
- センターの役割** 活動場所等の提供、広報活動の支援、相談(和泉)

メニュー	販売期間	価格	販売数
大豆ハンバーグのロコモコ丼	6月10日(月)・11日(火)・12日(水)	540円	297食
蒸し鶏のねぎゴマだれ定食	6月13日(木)・14日(金)	540円	239食
大豆ミートのトマト煮込みハンバーグ	12月9日(月)・10日(火)・11日(水)	540円	300食
白菜と鶏肉のあんかけ丼	12月12日(木)・13日(金)	540円	196食
寄付金額: ①10,720円 ②9,920円(一食につき20円を寄付)			



チラシ配り



白菜と鶏肉のあんかけ丼

おにぎりアクション (公認ボランティアサークルぱれっと)

TABLE FOR TWOの活動の一つである「おにぎりアクション」の取組みに「ぱれっと」が参加しました。明大生に広く知ってもらうため、ボランティアセンターや他のボランティアサークルからもSNS発信などの協力をしました。

日時 2024年11月

- 内容**
- ①自分のおにぎりを撮影
 - ②その写真をハッシュタグ#Onigiri ActionをつけてSNSに投稿。
 - ③1投稿ごとに協賛企業によって給食5食分に相当する寄付が行われる。
 - ④TABLE FOR TWOを通じて発展途上国の子どもたちに給食が届けられる。

センターの役割 提案、相談、広報活動の支援(和泉)

参加学生の声



文学部2年 林 日向子

私は、春秋を通して活動していく中で「TABLE FOR TWO」がボランティアの可能性を広げる大きな力を持っていることを実感しました。

学生の中にはボランティアに興味を持ちつつも、なにをしたらよいのかわからないと感じている人が多い印象があります。しかし、TFTの活動はどのような人でも気軽に参加することが可能です。食堂での「TABLE FOR TWO」のヘルシーメニューの提供は、学生がTFTメニューを購入することで寄付されるという仕組みになっています。加えて、秋学期に行った「おにぎりアクション」という活動では、参加者がおにぎりの写真をSNSへ投稿することで、寄付に繋がるという仕組みになっており、どちらも学生には大きな負担がなく、楽しみながら活動に参加することができます。ボランティア活動を「誰でも楽しみながら」行えるというのは、「TABLE FOR TWO」の大きな魅力であり、これによって、ボランティアの可能性が広がっていくと私は考えます。

また、この活動を行っていくなかで、一つ一つの取組みを支えてくださる方々の存在の大切さを改めて感じました。TFTメニューを提供して下さった食堂の方々はもちろん、活動に参加してくれたサークルのメンバー等、協力して下さった全ての人への感謝を忘れず、これからもより良い活動にしていけるよう頑張っていきたいと思います。

Meal for Refugees (公認ボランティアサークルMIFO)

「Meal for Refugees (M4R)」は、認定NPO法人難民支援協会(以下JAR)が、日本で暮らす難民の方々と作成した母国の料理のレシピ本『海を渡った故郷の味～Flavors Without Borders』から生まれた社会貢献プロジェクトです。

公認サークルMIFO(Meiji International Friendship Organization)が、食堂の協力の下、身近な「食」を通じて、より多くの大学生・教職員等に難民問題を身近に感じてもらい、関心・理解を深めてもらうことを目的に実施しています。売り上げの一部はJARを通して、日本で暮らす難民の方々に寄付されます。



ポスター

- 日時** ①2024年6月17日(月)～6月21日(金) 昼休み
②2024年12月2日(月)～12月6日(金) 昼休み
- 場所** 和泉キャンパス和泉の杜(学生食堂)
- 内容** ・学食にて難民の故郷の味を再現したメニューを導入する
・難民問題に関する啓発(学食へのポスターの設置、勉強会の開催など)
- 参加** ①10名 ②13名
- 協力** 株式会社ハートフルダイニング
センターの役割活動場所等の提供、広報活動の支援、相談(和泉)

販売メニュー	販売期間	価格	販売数
トマトソースの肉じゃが定食	6月17日(月)・18日(火)・19日(水)	540円	262食
トマト味のピリ辛白身魚定食	6月20日(木)・21日(金)	540円	116食
鶏肉と野菜のスパイシー炒め	12月2日(月)・3日(火)・4日(水)	540円	323食
サケバジルソースかけ	12月5日(木)・6日(金)	540円	172食
寄付金額：①7,560円 ②9,900円(一食につき20円を寄付)			



サケバジルソースかけ



12月チラシ配布の様子



企画学生の声

商学部2年 吉井 麻里加

「難民となった人々の故郷の味を学食に導入しよう」という取り組みである「M4R」を6月17日～21日の5日間開催しました。この活動を広く知ってもらうために食堂内にPOPを設置させていただきました。また、イベント当日には食堂前でビラ配りを行い、直接声をかけて宣伝をしました。何度か声をかけても、なかなかビラを受け取ってもらえず苦労することもありましたが、「美味しそう!」「食べに行こう」という声を多く聞くこともでき、活動に参加して本当に良かったと思いました。

また、「M4R」期間中の6月20日は「世界難民の日」でした。その日にM4Rの職員の方が和泉キャンパスを訪れ一緒に食堂で食べることができ、直接お話しも聞け、メンバーにとって貴重な機会となりました。

今回、責任者として参加し、サークルのメンバーの交流を深めることができ、非常に楽しく活動ができました。次回は、メディアやSNSを活用して広報活動を強化することでより多くの人に「M4R」の活動を知ってもらいたいと考えています。また、難民や異国の文化についての理解を深めるために勉強会を開催し、より意欲的に参加してもらえるように頑張りたいです。

全商品リサイクル活動 (公認ボランティアサークルMIFO)

「全商品リサイクル」は、明治大学の学生、教職員、また近隣の住民の方々から不要になった衣類などを回収し、企業やNPO団体を通じ難民キャンプに送る、公認サークルMIFO (Meiji International Friendship Organization) が実施しています。また、この活動を通して、学生が主体となり難民の方への実質的な支援を行うと同時に、より多くの学生、教職員等に難民問題を啓発し国際問題への意識を高めること、資源の有効活用につなげることを目的に多面的な視点で取り組んでいます。

日時

①2024年6月10日(月)～6月14日(金) 昼休み
②2024年12月9日(月)～12月13日(金) 昼休み

場所

和泉キャンパス第一校舎前

参加

①17名 ②13名

回収

①78着 ②10着

協力

株式会社ユニクロ
センターの役割相談、広報活動の支援、作業場所及び保管場所の提供(和泉)



回収の様子(6月)



回収の様子(12月)



経済学部2年 永谷 晴輝

「全商品リサイクル」は、MIFOの国際支援活動や環境保全活動の一環として行なわれる活動です。6月の活動では、2023年度と同様の日数で、和泉キャンパスと中野キャンパスで行いました。学生や教職員の皆様に活動をご理解いただき、衣類をご提供いただくことができました。株式会社ファーストリテイリングにご協賛いただき、お預かりした衣類のうち、ユニクロ・GUブランドの計31着を寄付しました。それらは衣料支援や素材リサイクルに活用されます。その他の服に関してはフリーマーケットで販売、売上金を寄付する予定です。今回、服を持ってきてくださった方々、活動をサポートしてくださった方々、ご協力ありがとうございました。

全商品リサイクル活動 (公認ボランティアサークルMIFO)

難民問題を啓発し国際問題への意識を高めることをねらいとし、明治大学の学生、教職員、また近隣の住民から不要になった衣類などを回収し、ユニクロやNPO団体を通じ難民キャンプに送る活動を行っています。

日時	2024年6月10日(月)～14日(金) 12:30～13:30
場所	中野キャンパス1階アトリウム
参加	11名
回収	69着
センターの役割	広報活動の支援(中野)



グループワークの様子

献血活動への呼びかけ（公認ボランティアサークル 明治大学学生赤十字奉仕団・クローバー）

学生赤十字奉仕団クローバーの学生が献血への参加周知活動を行いました。

日時	2024年5月30日（木）12月8日（水） 10：20～11：00、12：30～16：30
場所	中野キャンパス1階アトリウム
参加	3名
献血者	78名（5月…50名 12月…28名）
センターの役割	広報活動の支援（中野）



献血会場の様子

こども食堂のお手伝い（Tree）

日時	2024年11月20日（水）
場所	Bistrot VIVANT ビストロヴィヴァン（東京都千代田区）
内容	こども食堂で提供する料理のお手伝い、来場した子どもたちとの交流、会場設営や飾りつけ、配膳・片付け等
参加	4名
主催	こども食堂family couch

参加学生の声



商学部3年 陳 沢美

厨房に立ち、野菜のカットからコロケづくりなど幅広く料理のお手伝いをさせていただきました。初めてのボランティア先でしたが、丁寧に教えていただき、楽しんで取り組むことができました。料理以外にも、参加していた子どもたち15人弱と一緒にパズルゲームなどで触れ合うことができました。また、誕生日を迎えた子ども向けのサプライズ企画では、会場の飾りなどを協力して行い、喜んでもらったのが印象的です。今回参加してみて、定期的にかかっているこども食堂は、人と人がつながれる温かい場だと感じました。子どもはもちろんですが、親御さんのコミュニケーションの場としても、とても大切なものだと思うので、今後も継続的にボランティアとして参加していきたいと思いました。



こども食堂写真

善福寺公園の清掃 (Tree)

日時 春学期 2024年5月26日(日) 13:30~15:30

秋学期 2024年12月1日(日) 14:00~15:00

場所 都立善福寺公園(東京都杉並区)

内容 清掃活動(落ち葉収集・排水溝掃除)

参加 春学期 60名

秋学期 37名

参加学生の声



文学部4年 石川 遼

清掃活動では7班に分かれ、主に落ち葉拾いを中心とした清掃活動をおこなった。活動を通じて班員同士が会話する光景が多くみられ、幹部としても嬉しく思っている。管理者の室井様とも直接会って代替わりの報告をすることができ、今秋や来年以降の関係継続を図りたいと考えている。

法学部4年 香山 蓮彩

春に引き続き、本年度2回目の善福寺公園清掃を行った。班ごとに落葉清掃を行ったが、各班学年を超えた交流を行っている姿が見受けられ、やはり本活動はTreeの部員が親睦を深めるにあたり必要な活動であると感じた。公園清掃は部員にとっても参加しやすい活動であるらしく、春や昨年度にも参加したことがあるという人が非常に多かった。来年度以降も、Treeの一大イベントとして参加を継続してほしいと思った。



善福寺公園清掃の様子

スポGOMI in すみだ環境フェアへの参加 (Tree)

「スポGOMI」とは「ごみ拾いはスポーツだ！」を合い言葉に、制限時間内(2時間)に定められたエリア内で拾ったごみの質と量をポイントで競う、チーム対抗で競技としてごみ拾いを楽しむイベントです。今回の大会では、Treeは「運営ボランティア」と「競技者」としてそれぞれ参加しました。

日時 2024年6月15日(土) 8:40~13:00

場所 オリナス錦糸町(東京都墨田区)

参加 27名(運営ボランティア5名、競技者22名)

内容 【運営ボランティア】5名

1. 受付でのチーム確認、マニュアル、ゴミ袋、ゼッケンの配付
2. 机や備品の運搬
3. 計量器を使ったゴミの測定
4. ゼッケンの片付け

【競技者】4チーム計22名(チーム名:椿、榎、楸、柊)

1. チームに分かれ、それぞれのチームが拾った最終的なごみの質と量をポイント換算し、そのポイントの合計をチームごとに競う。
2. 路上に捨てられたゴミの回収を行う。
3. チームの中で1人「審判」を決め、審判はチーム全体への大会ルールの説明と大会本番中の違反の監視を行う。

参加学生の声



情報コミュニケーション学部3年 勝本 真望

今回は、団体(Tree)として初めて競技者の参加者募集を行いました。競技者を募るのは初めての経験だったことから、団体(Tree)でどのように募集をかけたらいいのか、当日の動きを完璧に把握することができないなど、対応に困ることもありました。しかし、スポGOMI連盟の方々やTreeメンバーなどの助けがあり、イベントを楽しみながら乗り切ることができました！最終結果は、4チームそれぞれ14位、18位、19位、25位となり、4チーム合計で6.11kgものゴミを回収することができました。最終的には、参加メンバーから「共通のタスクを通して、仲を深めることができてよかった！」「楽しかった！また、参加したい！」などの好意的なフィードバックを得ることができて安心しました！今回得た教訓は、次回のスポGOMI参加時に役立てていきたいです。



スポGOMI イベントの様子

ブルーサンタ2024 Borderless Blue at 葛西臨海公園 (Tree)

日時 2024年7月7日(日) 10:30~12:00

場所 葛西臨海公園

内容 公園清掃

参加 66名

参加学生の声



法学部4年 香山 蓮彩

前回2023年度の参加時よりも多くのメンバーが活動参加を希望し、大規模での参加となった。先方のご協力を頂きながら、チームを作成しそれぞれで受付を行うことでスムーズに活動を開始することができた。猛暑の中であったため、適宜休憩を取りながらゴミ拾いに取り組んだ。個人的な体感としては、昨年度より落ちていたゴミが多かったように思える。

海岸清掃はTreeにとって貴重な機会であり、活動を楽しみにしているメンバーも多いため、今後も継続していければよいと思った。BLUE SANTAだけでなく他の地域や、体調の観点からもう少し涼くなってからの活動も併せて検討していきたい。



清掃活動中の様子

MIW祭り (Tree)

日時 2024年10月4日(金)、5日(土) 12:30~17:00

場所 千代田区役所

内容 ペットボトルキャップを用いたオリジナルアート(今回は木をイメージに作成)を、来場者とスタッフと一緒に作成する企画の他、エコキャップ回収BOXを臨時で設置し、来場者が持参したペットボトルキャップを収集する活動を行った。

参加 11名

参加学生の声



文学部4年 滝山 大輝

今年度は、例年の活動(ボトルキャップを廃棄してもらい、ワクチンへと変える説明を行う一連の活動)から一新し、来場者にも楽しんでもらうことを前提としたボトルキャップアートの作成を試みた。パネルなどは段ボールを筆者が持参し、部室に置いてあった画用紙を張り付けて作成した。ペットボトルキャップは衛生管理の面から、使用するキャップは全て洗浄したものを用意した。加えて、図面の作成や企画に用いる両面テープや小道具、文具の用意など一連の準備は基本的に渉外が担当した。結果として例年度と比較し、来場者が大幅に増加した。特に子ども連れの方が、2、3組来場されたことが印

象に残っている。図面を見ながら、貼り付ける作業は少し骨が折れたが、いざ作品が完成すると、参加したスタッフの様子も満更でもなかった。正直なところ、例年と比べて今回は圧倒的に達成感があった。MIW（千代田区男女共同参画センター）スタッフの方々には、ホワイトボードなどの物品も用意して頂き、他団体の方々とも交流を深めることが出来た。



MIW まつりの様子

明大前駅周辺清掃活動 (公認ボランティアサークルぱれっと)

環境問題への啓発活動を主な目的とし、公認ボランティアサークルの「ぱれっと」が活動しています。2024年度の清掃活動は、昼休みを利用し和泉キャンパスの周辺で行いました。ごみ拾いをする際は、燃えるごみ、燃えないごみ、ペットボトル、びん・かんとごみ袋の係をその都度分別し、集めたごみ袋は、それぞれの重さを量り、記録し、処分します。

この活動はメンバー同士のコミュニケーションの機会でもあります。また、他の公認ボランティアサークルと合同での活動も行っています。

日時 週1回程度 昼休み

場所 和泉キャンパス周辺、甲州街道沿い、明大駅前通学路等

参加 217名

回収 一回あたり平均：燃えるごみ250g、缶20g、ペットボトル150g、燃えないごみ420g

センターの役割 作業場所及び保管場所の提供（和泉）



活動の様子



集合写真

江の島新歓清掃 (公認ボランティアサークル LINKs)

日時	2024年5月12日(日)
場所	江の島付近の海岸
内容	海岸清掃をしながら、一年生がLINKsの活動に来たいと思えるようになるように同級生、先輩とのつながりを、また、上級生同士のつながりを深める活動をしました。
参加	116名
センターの役割	備品貸し出し(生田)



H.S.

活動の企画については、これまでも何度か同様の活動を担当してきたため、当日のスケジュール管理や役割分担、準備物の手配などはスムーズに行うことができました。ただし、今回の新歓イベントでは、新入生の人数に対して上級生の人数がかなり少なかったため、グループ分けに苦労しました。特に、男女比や学部のバランスを考慮したグループ構成を目指していたのですが、人数の偏りにより、すべてのグループで理想的なバランスを保つのは困難でした。そのため、一部の上級生には複数のグループをフォローしてもらうなどの工夫を行いました。

活動自体はとても充実しており、参加者からも「楽しかった」「いろんな人と話せた」と好評でした。鎌倉の街を観光しながら、グループごとにゴミ拾いを行う形式だったため、地域貢献と交流の両方が自然と生まれるような内容になりました。普段関わる機会が少ない他学部の学生や、学年を越えた交流も多く見られ、私自身も多くの人とコミュニケーションをとることができました。特に、新入生が緊張しながらも徐々に笑顔になっていく姿を見ることができ、この活動を企画して本当によかったと感じました。

エコキャップ回収(Tree)

キャンパス内に設置された回収ボックスにペットボトルのキャップを集め、回収業者に引き渡します。その後資源として売却され、売り上げを「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じて発展途上国の子も達のワクチン接種のために寄付しています。

日時	2024年 4月15日(月) 12:30~14:30 7月2日(水) 12:30~13:30 12月20日(火) 13:00~14:00
場所	駿河台キャンパス
内容	駿河台キャンパス内でのペットボトルキャップの回収、回収したキャップの部室への運搬及び保管
参加	34名
センターの役割	相談、当日対応、備品の提供(駿河台)



エコキャップ回収の様子



国際日本学部4年 齋藤 眞子

実際にエコキャップを集めてみると、ごみ袋が何袋もいっぱいになり、多くの方々がエコキャップ回収に協力してくださっていることを実感しました。全ての回収BOX配置場所から回収するのは大変でしたがメンバーと協力しあいながら行い、チームワークを発揮することができたと思います。日々の小さな積み重ねが、途上国の子どもたちを救うことにつながると考えると、とてもやりがいを感じました。

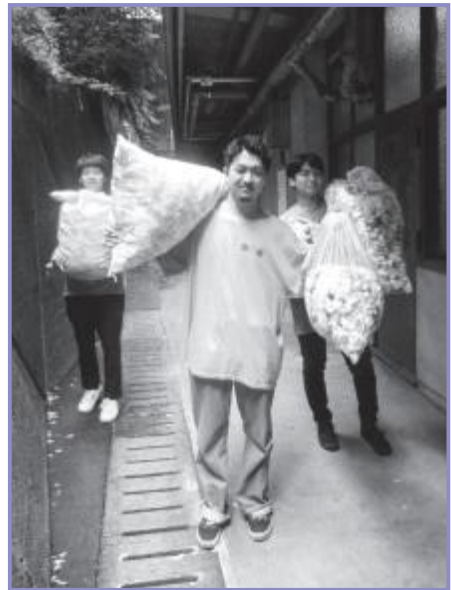
エコキャップ業者引き渡し (Tree)

日時	2024年7月11日(木) 10:00~12:30
場所	駿河台キャンパス10号館内
内容	袋詰めしたエコキャップ袋を業者の方に引き渡す
参加	学生5名、職員2名
回収	192Kg (キャップ96,000個、96.0人分)
センターの役割	相談、当日対応及び立会、備品の提供(駿河台)



国際日本学部4年 齋藤 眞子

過去2回集めたエコキャップを業者の方に引き渡しました。蒸し暑い中、袋の数も多かったため、部室から外に運び出す作業は大変でしたが、少人数ながら良いチームワークを発揮し、効率よく運び出すことができました。引き渡されたエコキャップが発展途上国のワクチンに還元されることで、1人でも多くの子どもたちの役に立てると思うとやりがいも感じました。次回のエコキャップ回収と引渡し作業も皆で協力しながら頑張ります。



エコキャップ業者引き渡しの様子

エコキャップ回収 (公認ボランティアサークルぱれっと) 和泉

「手軽なボランティア」をモットーに環境系に力を入れて活動している公認ボランティアサークル「ぱれっと」が2008年から行っている活動です。

キャンパス内に設置した回収ボックスでペットボトルのキャップを集め、回収業者に引き渡します。その後、資源として売却され、売上を「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じ発展途上国の子ども達のワクチンのために寄付しています。

日時	通年 昼休み
場所	和泉キャンパス
参加	55名
回収	125kg (キャップ62,500個、62.5人分)
センターの役割	作業場所等の提供、回収したキャップの保管、連絡調整 (和泉)

参加学生の声



法学部2年 秋庭 唯舞

2024年はエコキャップ回収よりも学外に出てごみ拾い活動をする機会が多く、全体的に2023年よりも1回当たりの平均回収量が増えました。大学構内はごみ箱がしっかり設置されていて、意識してしっかりごみ箱に捨てる人が多いと思われる。よって大学内ではほとんどごみが落ちているのを見かけません。しかし、これが学外になりますと学生だけではなく、公の場になるためごみが多く捨てられていて、その中には茂みに目立たないように置かれているものもあれば、ポイ捨てしたようなものまで様々です。この現状を通して考えられるのは、地域の景観を保つためにはごみ箱設置を進めれば良いのではなく、活動を行う者、捨てる人が意識してその場にごみを捨てない選択をすることが必要だと感じました。また、この活動は、自分達のごみを拾ったあと綺麗になった場所を見ること、地域の方から感謝の言葉をかけて頂くことが嬉しく、やる気を感じました。来年度はよりごみ拾いを広く、多くの人数で行えるようにしたいです。

「ながら見守り」活動啓発グッズ作成への協力 (Tree)

日時 2024年5月8日(水) 9:00~10:00

2024年11月14日(木) 9:00~10:00

場所 千代田区役所本庁舎内会議室

内容 児童が安心して通学できるように、周囲の人たちが見守っているよという目印になるような見守り啓発グッズのデザインの検討や議論を、法政大学の学生とともに行った。上記2回の対面での検討会の他、SNS ツールを使い審議を重ねた。

参加 2名

主催 千代田区教育委員会

参加学生の声



商学部4年 高橋 吾成

キャラクターのデザインを作成することは、周りの学生たちを含め初めてだったので、わからないことが多かったです。そこで、児童を見守っていることがパッと見てわかることと、多くの人に着けやすい、親しみやすいと思ってもらえることの2点を目標にして議論を進めていきました。その中で、「電車でこういう意味を表すキーホルダーを持っている人がいて、こういうのが良いと思った」など、普段なかなか議論することのない内容について、自分以外の人はどう感じているのかを知ることができたことは良い経験になりました。たくさんの意見が出て、最終的に可愛いデザインキャラクターが完成したので、ぜひ多くの人の手に渡って、児童が今よりも安心して通学できるようになれば良いと思います。

神田すずらんまつり (Tree)

日時 2024年5月25日(土) 9:30~17:00

場所 神田すずらん通り商店街(東京都千代田区)

内容 神田すずらんまつりの運営補助、エコキャップ回収活動、レモネードスタンドの出展

参加 41名

センターの役割 連絡・調整(駿河台)

参加学生の声



文学部4年 石川 遼

今回は、Treeとして今年度初めての学外活動だった。特にメンバーのシフト作成やレモネード製作方法の確立、販売方法、広告等、計画性と柔軟性を試される機会が多く、活動運営の難しさを実感した。そのような中でも、活動を通して参加者同士が話し合い、多くの交流が図られたことを嬉しく思っている。レモネードも来場した多くの方々に購入していただき、充実した活動となった。並行して行った、エコキャップ回収や交通案内等のボランティア活動においても、強い日差しの中、新加入のメンバー含めた全員がしっかりと務めを果たしてくれ、とても感謝している。



神田すずらんまつりの様子

華を楽しむ会 (Tree)

日時 春学期 2024年6月22日(土) 13:00~14:30

秋学期 2024年12月7日(土) 13:00~15:00

場所 神田猿楽町町会詰所付近(東京都千代田区)

内容 神田猿楽町地域の花壇の整備、植え替え

参加 春学期11名、秋学期5名

センターの役割 連絡・調整(駿河台)

参加学生の声



商学部4年 郭笑盈

本活動では、新しくできた小学校の通りにある花壇の整備、植え替えを行いました。花壇にある雑草や枯れ葉を取り除き、新しく色とりどりのお花を植えると心が洗われたように感じました。ただ蚊が多く、かなり刺されている人もいたので次回の活動に関しては蚊除けスプレーをつけてから来ることは必須であると感じました。今年の秋にもう一度開催するとお聞きしたので、それにも参加し、猿楽町付近の花壇を綺麗にしたいと考えています。

国際日本学部4年 齋藤 眞子

華を楽しむ会に参加し、駿河台キャンパス近隣の道端に生えた雑草等を抜き、新たに色とりどりのお花を植える緑化活動を行いました。普段花を植える機会はあまりなかったため、冬の花についての知識がいたり、植物の美しさに触れたりする貴重な機会になりました。神田猿楽町町会の皆様のご協力のもと、参加させていただき、お話もできて良かったです。花を植えた道端を歩く方に少しでも綺麗だなと思って頂けたら嬉しいです。



華を楽しむ会の様子



Treeは、駿河台ボランティアセンター直属の学生ボランティア団体です。

主な活動として、「エコキャップ運動^{*}」、「ホームカミングデー」への協力、「明大祭」への出店などを行っています。この他にも、清掃活動、駿河台キャンパス近郊の地域で行われる行事の運営補助等を行い、地域社会に貢献する取り組みを積極的に行っています。

^{*}駿河台キャンパス内にペットボトルキャップの回収箱を設置し、回収を行う。回収したペットボトルキャップは、民間業者に売却し、その売り上げをNPO団体に寄付することで世界の子どもたちにワクチンが提供される。

コラム



行動力

情報コミュニケーション学部2年 八木田 裕樹

公益財団法人日本財団ボランティアセンター主催
美しい海を未来へ残そう！～PIG EGGプロジェクト in バリ島に参加

私は、「美しい海を未来に残そう！」をモットーに全国から応募し選ばれた、12人の学生と共にインドネシアのバリ島を訪れ、環境問題だけでなく、様々な社会問題の解決に取り組みました。このプログラムを通して、日本人だけでなく世界の環境活動に尽力している方々と活発な意見交換ができ、更なる多くの刺激をもらうと同時に世界の現状について身をもって実感することができました。

まずバリ島を訪れる前に日本での事前学習としてごみ処理施設を訪れました。ここではクリーンなイメージのある日本とは裏腹に金銭面的な問題や埋め立て処分の限界、3Rへの国民の無頓着さなど、実は多くの課題があることを学びました。そのため後に訪れたバリ島の現状を学んだ際、日本にとっても他人事ではない深刻な問題であることに気付くことになりました。

その後約1週間のバリ島での活動の中で私は様々な体験をしました。その中でも特筆したい活動を紹介します。初日、レンボンガン島という離島に訪れたのですが、そこはリゾート地であると同時に、道路を挟んですぐ隣には観光ごみが未処理のまま山のように放置され、自然発火し危険な状態でした。現地の人々はそのごみの山を見て、「観光客がたくさん来た」と喜ぶと聞き、我々はそのような感想を持つ人々を前に現状を打破する術がみつからなく困惑しました。また、Sungai Watchさんと行ったマングローブ原生林のごみ拾いは非常に強烈な印象を私に残しました。マングローブに堆積した異臭を放つ生活ごみが海に流れないように回収をしたのですが、衣類、プラスチックゴミ、生活ごみ、おむつなど多くの廃棄物が堆積していました。実際に人力で環境保護をすることの重要性を感じる一方、今している活動自体を根本的な解決につなげるには多くの課題があると感じました。一方、「R.O.L.E Foundation の訪問」は最も感銘を受けた活動でした。創設者はサーフィン中に海に漂うゴミやホテルが投棄した石鯰をきっかけに活動を始め、現在ではリサイクルセンターの施設の統括、サンゴ礁の保護活動、女性就労支援と多方面に活躍されていました。私は体育会ボードセーリング部に所属し、逗子でウィンドサーフィンをしている際に練習の妨げである海洋ごみの問題を考え始めこの活動に申し込んだため、活動に親近感を持ち、自分も負けていけないとも思いました。他にも、スカベンジャーの方とお会いする機会や、ウブドにある「mana」という再生循環施設への宿泊、サンゴ礁の保護活動、



「Clean Up Bali」という団体と地元の大学生と共にビーチクリーニングなど様々な体験をしました。

私はバリ島で活動している方々の「行動力」に圧倒され、同時に「行動力」が、これからの自身を奮起させる言葉になりました。



仲間と集合写真（本人左前）

資料

ボランティアセンター来室者・活動参加者

	来室者*	うち学生*	活動参加者**
2013年度	6,057	5,468	
2014年度	6,913	6,216	
2015年度	8,321	7,647	
2016年度	9,417	8,873	
2017年度	10,239	9,581	
2018年度	12,305	11,633	2,601
2019年度	12,008	11,403	2,347
2020年度			2,304
2021年度	2,241	1,996	1,824
2022年度	3,478	2,988	2,184
2023年度	3,915	3,308	2,120
2024年度	3,893	3,306	1,917
累計	78,787	72,419	15,297

*対面での数。
 **対面又はオンラインで、センターが主催・コーディネートした企画の活動参加者。2018年度から集計。
 ***2020年度は、全てオンラインでの数。

外部事業への協力・取材など

外部委員委嘱

- ・ 杉並区社会福祉協議会杉並ボランティアセンター 運営委員
- ・ 杉並災害ボランティアネットワーク連絡会 委員

発行物



明治大学ボランティアセンターパンフレット



明治大学公認ボランティアサークル活動一覧表



2024年度 明治大学ボランティアセンター活動報告書
発行日 2025年10月発行
発行 明治大学ボランティアセンター